

令和 7 年度

三戸町教育委員会の事務の管理及び
執行状況の点検評価に関する報告書

－令和 7 年度事業の点検評価－

三戸町教育委員会

目 次

◇	点検・評価の概要	1
◇	令和7年度三戸町教育基本方針	3
◇	令和7年度施策別主要事業一覧表	10
◇	施策分野ごとの重点項目に関する点検及び評価	

1 教育環境の整備促進等

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(1)小中一貫教育体制の充実	ア 小中一貫教育推進委員会	1 2
	イ 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業	1 2
(2)就学支援等の充実	ウ 特別支援教育就学奨励事業	1 3
	エ 奨学金貸与事業	1 3
	オ 学び応援！入学祝い金支給事業	1 3
	カ 学び応援！習い事補助金	1 4
	キ 学び応援！高校生修学支援金	1 4
	ク 全国大会等児童派遣費補助事業	1 5
(3)教育活動支援のための補助事業の充実	ケ 中体連等派遣費補助事業	1 5
	コ 教育振興協議会支援事業	1 5
	サ 学び応援！修学旅行費補助金	1 6
	シ 小中学生芸術鑑賞教室	1 7
	ス スクールバス等運行事業	1 7
(4)その他教育環境の充実	セ 部活バス・部活支援バス運行事業	1 8
	ソ 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診	1 8
	タ コミュニティ・スクール運営事業	1 9
	チ 部活動地域展開支援事業	1 9
	ツ 学習習慣形成事業（学習コーチ・探究コーチ事業）	2 0
	テ 三戸町立学校給食共同調理場運営事業	2 2
	ト 小中学校給食無償化事業	2 2
	ナ 三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）	2 3
	ニ 三戸高等学校との連携推進（高校昼食提供事業）	2 4
	ヌ 三戸高等学校との連携推進（三戸高校魅力化コーナーディネーター設置事業）	2 4
ネ 学校における働き方改革推進事業	2 4	

2 学校教育指導の重点

重点項目	点検評価の対象事業	頁
(1)小中一貫教育の推進	ア 三戸町学校教育研究大会	26
	イ 小中一貫教育推進事業	26
	ウ 特色ある教育活動推進事業（三教研）	28
	エ 小中乗り入れ授業実施	29
	オ 小中一貫教育支援特別講師設置事業	30
	カ 英語科教育コーディネート事業	31
(2)授業の充実	キ 授業実践支援事業（三教研）	32
(3)立志科の充実	ク 立志科推進事業補助金交付事業	32
(4)体育・健康教育の充実	ケ 基本的な生活習慣（生活リズム）講演事業	33
	コ 栄養教諭による食の出前授業	34
	サ フッ化物洗口事業	34
(5)生徒指導の充実	シ 生活習慣改善による不登校対策事業	35
	ス 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）	36
	セ 教育相談室運営（三教研）	36
	ソ 不登校等連絡会議（三教研）	37
(6)キャリア教育の推進	タ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	38
(7)特別支援教育の充実	チ 小中一貫教育チューター設置事業	39
	ツ 教育支援委員会（三教研）	39
	テ 教育支援委員会学習会（三教研）	40
(8)環境教育の推進	ト 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	40
(9)国際化に対応する教育の推進	ナ 外国語指導助手（ALT）招致事業	41
	ニ 英検受験料補助	42
	ヌ 中学生海外派遣事業	42
(10)情報化に対応する教育の推進	ネ ICT支援員設置事業	43
	ノ 三戸地方未来塾補助事業	44
	ハ GIGAスクールサポート業務	44
(11)安全・安心な学校環境づくりの推進	ヒ 学校施設・設備整備	45
	フ 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業	45
	ヘ 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業	46
(12)教員研修の充実	ホ 授業実践支援事業（三教研）	46
	マ 教育相談研修講座（三教研）	47
	ミ 学級経営研修講座（三教研）	47
	ム 教職員資質向上研修講座（三教研）	48
	メ 校内研修講師等派遣事業（三教研）	49
(13)複式教育の充実	モ 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三教研）（再掲）	49

3 社会教育指導の重点

重点項目	主要事業	頁
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	ア さんのへ農業小学校支援事業	50
	イ 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業	50
	ウ 伝統芸能保存継承事業	51
	エ ふれあい活動事業	51
	オ 放課後子ども教室推進補助事業	52
	カ 青少年健全育成三戸町民会議運営事業	52
	キ 三戸町少年指導センター運営事業	53
	ク 家庭教育学級開催事業	53
(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成	ケ 二十歳を祝う会開催事業	54
	コ 三戸町人材活用講師派遣事業	54
	サ ふれあい活動事業（再掲）	54
(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進	シ 三戸オープンキャンパス（旧：公民館講座）	55
	ス 公民館分館講座委託事業	55
	セ 高齢者学級寿教室	56
	ソ 三戸キッズチャレンジ(旧：子ども公民会講座)	57
	タ 公民館まつり開催事業	58
(4) 社会教育推進のための基盤整備	チ 三戸町中央公民館管理運営	58
	ツ 社会教育関係団体補助事業	59
	テ サークル活動への支援	59
	ト 三戸町立図書館の運営	59
(5) 生涯スポーツの振興	ナ 総合優勝制町内対抗スポーツ大会	60
	ニ 三戸町スポーツ賞表彰	61
	ヌ 各種スポーツ大会補助事業	61
	ネ 三戸町体育協会支援事業	61
	ノ スポーツ指導者の養成・活用	62
	ハ 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）	63
	ヒ 体育館等管理運営(町民体育館・松原運動公園)	63
	フ アップルドーム管理運営	63
	ヘ パークゴルフ場管理運営	64
	ホ 町民プール管理運営	65
(6) 芸術・文化活動の充実と文化財の保存	マ 三戸町立版画工房運営	66
	ミ 芸術文化団体等補助事業	66
	ム 南部俵積み唄全国大会開催事業	66
	メ 三戸町文化賞表彰	67
	モ 三戸城跡保存活用事業	67
	ヤ 歴史民俗資料館運営事業	68
	ユ 地域学習サポート事業	69
	ヨ 伝統芸能保存継承事業（再掲）	70
	ラ 歴史講演事業	70

点検・評価の概要

1. 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

この法律を受け、三戸町教育委員会では、令和7年度における教育に関する事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2. 点検・評価の方法

(1) 三戸町教育基本方針

三戸町教育委員会では、令和7年3月に策定した令和7年度三戸町教育基本方針に定める学校教育指導の方針と重点及び社会教育指導の方針と重点に基づき各種事業を実施しています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、別添「令和7年度施策別主要事業一覧表」の3つの施策分野ごとに掲げる重点項目を推進するための主要事業（98事業（再掲含む））を点検・評価の対象としました。

(3) 学識経験者（外部評価委員）の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学識経験者を「外部評価委員」として委嘱し、点検・評価の実施方法や内容について意見をいただき、これを参考に報告書を作成しました。

○外部評価委員

氏名	役職等
友田博文	元三戸町教育長（青森市）
千葉萬壽雄	元小学校校長（三戸町）

3. 評価報告書の作成

評価報告書は、主要事業（98事業）ごとに、（1）事業の概要、（2）事業実績、（3）成果と課題、（4）事業の方向性の記述により作成しています。

4. 令和7年度点検・評価作業の経過

○外部評価委員会会議（R8.3.24）

- ①令和7年度評価に係る実施要綱の確認
- ②令和7年度の事業取組みについて説明
- ③点検・評価の報告書の作成方法についての確認
- ④点検・評価作業日程についての確認

○外部評価委員による評価のための事業調査（随時）

○教育委員会事務局職員による事業評価シートの作成（R8.3～4月）

○三戸町教育委員会へ報告書提出（R8.5.27）

5. 評価報告書の公表

評価報告書は、三戸町役場ホームページに掲載し公表します。

参考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和7年度三戸町教育基本方針

【 教育施策の方針 】

三戸町教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育を推進します。

また、学校教育と社会教育とが一体となり、誰でも生涯を通じて主体的に学ぶことができる生涯学習社会の実現を図ります。

そして学校、家庭、地域社会が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携・協力を努め、個性豊かでうるおいのある教育を推進します。

【令和7年度三戸町学校教育指導の方針と重点】

1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む小中一貫教育の推進に努める。

2 重点

(1) 小中一貫教育の推進

義務教育の9年間を見通し、こどもの発達段階と学習の連続性を重視した小中一貫教育を積極的に推進する。

ア 心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育9年間を見通した学力観、指導観の確立

イ 児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成

ウ 確かな学力の確立と、豊かな心を育むための9年間を見通した教育課程の編成と実践

(2) 授業の充実

一人一人のこどもが、各教科及び立志科等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ 「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に向けた教材研究の深化

ウ 一人一人の学習の過程や成果の的確な把握と指導の改善につながる評価の工夫

エ 各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ 学校図書館やICTなどを活用した、こどもの学びを支援する学習環境と学習活動の充実

(3) 立志科の充実

一人一人のこどもが、豊かな心を持ち、人間としての生き方あり方を自覚し、将来に向けてたくましく、主体的な行動ができる人間形成を目指し、その資質や能力の育成に努める。

ア 立志科授業の指導の工夫と研究

イ 郷土を愛する心を育む指導の充実

ウ 特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を包摂した立志科の教育活動の創意工夫

エ 探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成

オ 立志科を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

(4) 体育・健康教育の充実

一人一人のこどもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

- ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実
- イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実
- ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実
- エ 安全な生活を送る基礎を培い、安全で安心な社会づくりに参加し貢献できる資質・能力の育成

(5) 生徒指導の充実

一人一人のこどもが、個性を発見し、自分のよさや可能性を伸ばすことができるよう、家庭や地域社会及び関係機関との連携を図りながら、心の結びつきを基調として支えるとともに問題行動・不登校等の未然防止、早期発見、早期対応に努める。

- ア 基本的な生活習慣を育成する協働的な指導体制の充実
- イ 生徒指導の実践上の視点を生かした学習指導と学年・学級経営の充実
- ウ 児童生徒理解に基づいた教育相談の充実
- エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底

(6) キャリア教育の推進

一人一人のこどもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。

- ア 立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実
- イ 9年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実
- ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

(7) 特別支援教育の充実

発達障がいを含む障がいのあるこどもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

- ア 校内支援体制の整備・充実
- イ 個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実
- ウ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実
- エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

(8) 環境教育の推進

一人一人のこどもが、身近な環境や環境問題に関心を持ち、人間と環境との関わりについて理解を深め、環境の保全やよりよい環境づくりのために、環境問題に主体的に取り組む態度や実践力の育成に努める。

- ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫
- イ 立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫
- ウ 環境に関わる体験学習の充実

(9) 国際化に対応する教育の推進

一人一人のこどもが、国際社会で主体的に生きる日本人としての基礎的資質を養うため、人間尊重の精神を基盤として、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の充実に努める。

ア 異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成

イ 英語によるコミュニケーション能力の育成のため、ALT（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーを活用した英語科（小学校）の推進

(10) 情報化に対応する教育の推進

一人一人のこどもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実

イ 学習指導におけるICTの適切な活用

ウ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実

(11) 安全・安心な学校環境づくりの推進

一人一人のこどもが、安全で安心して学習できる学校環境づくりのため、学校・家庭・地域とが連携した取り組みの充実に努める。

ア 学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進

イ 学校施設・設備保全の推進

ウ 防災・防犯等安全教育の充実

(12) 教員研修の充実

教員が教育公務員としての使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、深い専門性を身に付け充実した教育活動を実践することができるよう、教員に対する計画的・実践的な研修の充実に努める。

ア 教員の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進

イ 日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実

ウ 学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実

エ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実

オ 家庭や地域社会と連携し、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動の研究・推進

(13) 複式教育の充実

少人数の特性を生かし、一人一人の個性・能力の伸長を図るとともに、社会性の育成に努める。

ア 学校運営・学級経営の創意工夫

イ 複式指導の充実

ウ 複式授業研修の充実

【令和7年度三戸町社会教育行政の方針と重点】

1 方針

町民が、ウェルビーイングの向上を目指し、生きがいのある充実した生活を送るとともに、人と人とのつながりを大切にする豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、一人一人の生涯にわたる学習と社会参加を実現する社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

多様な体験活動機会の充実を図り、心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

ア 青少年の体験活動の充実

(ア) 「さんのへ農業小学校」の支援

(イ) 町内子ども会、三戸町子ども会育成連絡協議会の活動支援

(ウ) 異世代・異年齢交流事業の推進

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

(ア) 「ナナメ」の関係づくりを意識した学習機会の推進（子ども会活動）

(イ) ふるさと意識を醸成する場の拡充（芸能保存会等補助事業）

(ウ) キャリア教育の推進（出前授業・職場体験）

ウ こどもの読書活動の充実

(ア) 読み聞かせボランティアグループの育成と支援

(イ) 読書活動推進のための啓発と情報提供

エ 地域全体でこどもを育む活動の充実

(ア) 地域住民とこどもをつなぐ実践の場の工夫（ふれあい活動）

(イ) こどもの健全な育成に向けての住民の意識や目的の共有化を図る工夫（放課後子ども教室推進事業）

(ウ) 青少年健全育成三戸町民会議との連携

(エ) 三戸町少年指導センターとの連携

オ 家庭教育支援の充実

(ア) 「三戸町家庭教育学級」事業の充実

(イ) 三戸町連合父母と教師の会との連携

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

地域活動の実践者、コーディネーター等のネットワークづくりに努める。

ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成

イ 郷土に誇りを持ち、次代を担う若者の育成

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

町民一人一人の主体的な学習を推進するとともに、学習の成果を地域で生かすことができるよう、社会参加活動の支援の充実に努める。

ア 関係機関との連携による多様な学習機会の支援

(ア) 三戸オープンキャンパス、分館講座、高齢者学級寿教室の開講

- (イ) 大学との連携による講演会及び学習会（園・保育所・学校の保護者対象）の開催
- (ウ) 三戸キッズチャレンジの開講

イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

- (ア) 学びの成果を生かす機会の拡充と積極的な活用
- (イ) 広域的な情報収集とコーディネート機能の拡充
- (ウ) 学習者や愛好者などによる自主グループ・サークル活動への支援

(4) 社会教育推進のための基盤整備

生涯学習活動の拠点となる社会教育施設の機能充実及び活用促進に努める。

ア 社会教育推進体制の充実

- (ア) 事業評価の充実
- (イ) 県及び他市町村の学習情報の収集・提供

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

- (ア) 利用者の視点に立った環境の工夫
- (イ) 町民の学習ニーズの把握

ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

- (ア) 研修等への積極的参加
- (イ) 社会教育主事講習への計画的派遣

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

- (ア) 社会教育関係団体等事業の支援
- (イ) 自主グループ・サークルの活動支援

(5) 生涯スポーツの振興

幅広い層の町民が、健康で明るく豊かな生活を送ることができるよう、スポーツに親しむ機会の拡大に努める。

ア 地域スポーツの推進

- (ア) 総合型地域スポーツクラブの支援
- (イ) 各種スポーツ大会の開催及び大会へのニュースポーツの導入
- (ウ) 三戸町体育協会との連携

イ スポーツに関わる人財の養成と活用

- (ア) スポーツ推進委員の研修等への積極的参加
- (イ) スポーツ推進委員の専門性を活かす場の拡充
- (ウ) スポーツ団体との連携

ウ スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進

- (ア) 利用者の視点に立った環境の工夫
- (イ) 町民のスポーツニーズの把握

(6) 文化財の保存と活用

郷土への愛着と誇りを培い、うるおいと活力のある町民生活を実現するため、次代へ伝えるかけがえのない文化財の保存・活用に努める。

ア 文化財の保護・保存

- (ア) 文化財を大切にし、守り伝えようとする意識の啓発
- (イ) 文化財の調査や記録作成の実施
- (ウ) 町文化財指定の推進

- (エ)文化財の保存・修理等の支援
- イ 文化財の公開・活用
 - (ア)文化財の公開・活用の促進と情報発信
 - (イ)郷土史を学べる機会の充実
- ウ 伝統芸能の継承
 - (ア)伝統芸能の後継者の育成支援と発表機会の充実
 - (イ)伝統芸能の記録作成の実施
- エ 三戸町立歴史民俗資料館の機能の充実
 - (ア)町内の史資料の収集・保管、展示・調査研究の充実と情報発信
 - (イ)教育普及活動の充実
- オ 国史跡三戸城跡の保存・活用及び考古学的調査の推進
 - (ア)史跡の本質的価値の保存管理
 - (イ)史跡の調査研究・展示・教育普及活動の充実と情報発信
 - (ウ)関係団体との広域連携の推進

◇令和7年度 施策別主要事業一覧表

分野	重点項目	細目	主要事業
教育環境の整備促進	(1)小中一貫教育体制の充実		ア 小中一貫教育推進委員会
	(2)就学支援等の充実		イ 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業
			ウ 特別支援教育就学奨励事業
			エ 奨学金貸与事業
			オ 学び応援！入学祝い金支給事業
			カ 学び応援！習い事補助金
	(3)教育活動支援のための補助事業の充実		キ 学び応援！高校生修学支援金
			ク 全国大会等児童派遣費補助事業
			ケ 中体連等派遣費補助事業
			コ 教育振興協議会支援事業
			サ 学び応援！修学旅行費補助金
	(4)その他教育行政の推進		シ 小中学生芸術鑑賞教室
			ス スクールバス等運行事業
			セ 部活動バス・部活動支援バス運行事業
			ソ 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診
			タ コミュニティ・スクール運営事業
チ 部活動地域展開支援事業			
ツ 学習習慣形成事業（学習コーチ・探究コーチ事業）			
テ 三戸町立学校給食共同調理場運営事業			
ト 小中学校給食無償化事業			
ナ 三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）			
ニ 三戸高等学校との連携推進（高校昼食提供事業）			
ヌ 三戸高等学校との連携推進（三戸高校魅力化コーディネーター設置事業）			
ネ 学校における働き方改革推進事業			
学校教育の重点	(1)小中一貫教育の推進	①心豊かでたくましい児童生徒の育成のための小・中学校義務教育9年間を見通した学力観、指導観の確立	ア 三戸町学校教育研究大会
		②児童生徒が、将来社会の一員として生きていくために必要となる基礎的な知識や技能の育成	イ 小中一貫教育推進事業
		③確かな学力の確立と、豊かな心を育むための9年間を見通した教育課程の編成と実践	ウ 特色ある教育活動推進事業（三教研）
	(2)授業の充実	①主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備 ②基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた教材の工夫と教材研究の深化 ③個に応じた学習過程と評価を重視した指導の工夫 ④各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫 ⑤学校図書館やICTなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実	エ 小中乗り入れ授業
			オ 小中一貫教育支援特別講師設置事業
			カ 英語科教育コーディネート事業
			キ 授業実践支援事業（三教研）
			ク 立志科推進事業補助金交付事業
	(3)立志科の充実	①立志科授業の指導工夫と研究 ②郷土を愛する心を育む指導の充実 ③特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を包摂した立志科の教育活動の創意工夫 ④探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する工夫 ⑤立志科を推進する指導体制と全体計画の整備・充実	ケ 基本的な生活習慣（生活リズム）講演事業
			コ 栄養教諭による食の出前授業
			サ フッ化物洗口事業
			シ 生活習慣改善による不登校対策事業
			ス 学級経営のための調査（Q-U、アセス）（三教研）
	(4)体育、健康教育の充実	①運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実 ②健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実 ③食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実 ④安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実 ⑤歯科衛生に関する実践と指導の充実	セ 教育相談室運営（三教研）
ソ 不登校等連絡会議（三教研）			
タ 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）			
チ 小中一貫教育チューター設置事業			
ツ 教育支援委員会（三教研）			
(5)生徒指導の充実	①基本的な生活習慣を育成する協働的な指導体制の充実 ②生徒指導の分析調査を生かした学年・学級経営の充実 ③児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実 ④児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底	テ 教育支援委員会学習会（三教研）	
(6)キャリア教育の推進	①立志科におけるキャリア教育指導体制の整備・充実 ②9年間を見通した将来の生き方指導・進路指導の充実 ③児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成		
(7)特別支援教育の充実	①校内特別支援体制の整備・充実 ②個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実 ③個別の指導計画の作成と活用による指導の充実 ④交流及び共同学習による相互理解の促進		

(8)環境教育の推進	①教科等間の関連を踏まえた指導の工夫 ②立志科における地域の環境の実態に即した指導の工夫 ③環境にかかわる体験的活動の充実	ト 立志科推進事業補助金交付事業（再掲）	
(9)国際化に対応する教育の推進	①異文化に対する理解やそれを尊重する態度の育成 ②英語によるコミュニケーション能力の育成のため、A L T（外国語指導助手）をはじめとするネイティブスピーカーを活用した英語科（小学校）の推進	ナ 外国語指導助手（A L T）招致事業 ニ 英検受検料補助事業 ヌ 中学生海外派遣事業	
(10)情報化に対応する教育の推進	①立志科を中心とした情報教育を推進する指導体制の整備・充実 ②学習指導におけるI C Tの適切な活用 ③家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実	ネ ICT支援員設置事業 ノ 三戸地方未来塾補助事業 ハ GIGAスクールサポート業務	
(11)安全・安心な学校環境づくりの推進	①学校警察連絡協議会等における情報交換や関係機関との連携・協力の推進 ②学校施設・設備保全の推進 ③防災・防犯等安全教育の充実	ヒ 学校施設・設備整備 フ 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業 ヘ 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業	
(12)教員研修の充実	①教員の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進 ②日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実 ③学習指導要領、三戸町小中一貫教育要領に基づく実践的研究の充実 ④学校の教育課題解決のための実践的研究の充実 ⑤家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・推進	ホ 授業実践支援事業（三教研）（再掲） マ 教育相談研修講座（三教研） ミ 学級経営研修講座（三教研） ム 教職員資質向上研修講座（三教研） メ 校内研修講師等派遣事業（三教研）	
(13)複式教育の充実	①学校運営・学級経営の創意工夫 ②複式指導の充実 ③複式授業研修の充実	モ 学級経営のための調査（Q-U、アセス）（三教研）（再掲）	
3 社会 教育 指 導 の 重 点	(1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	①青少年の体験活動の充実 ②地域が支えるキャリア教育の充実 ③子どもの読書活動の充実 ④地域全体で子どもを育む活動の充実 ⑤家庭教育支援の充実	ア さんのへ農業小学校支援事業 イ 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業 ウ 伝統芸能保存継承事業 エ ふれあい活動事業 オ 放課後子ども教室推進補助事業 カ 青少年健全育成三戸町民会議運営事業 キ 三戸町少年指導センター運営事業 ク 家庭教育学級開催事業
	(2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	①地域活動の実践者、コーディネーターの養成 ②次代の地域を担う若者の育成 ③地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援	ケ 二十歳を祝う会開催事業 コ 三戸町人材活用講師派遣事業 サ ふれあい活動事業（再掲）
	(3)一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	①関係機関との連携による多様な学習機会の支援 ②学習成果を生かした社会参加活動の支援	シ 三戸オープンキャンパス（旧：公民館講座） ス 公民館分館講座委託事業 セ 高齢者学級寿教室 ソ 三戸キッズチャレンジ（旧：子ども公民館講座） タ 公民館まつり開催事業
	(4)社会教育推進のための基盤整備	①社会教育推進体制の充実 ②社会教育施設の機能の充実と活用の促進 ③社会教育関係職員の養成と資質の向上 ④社会教育関係団体等の活動の支援	チ 三戸町中央公民館管理運営 ツ 社会教育関係団体補助事業 テ サークル活動への支援 ト 三戸町立図書館の運営
	(5)生涯スポーツの振興	①地域スポーツの推進 ②スポーツに関わる人財の養成と活用 ③スポーツ活動推進のための環境整備と活用の促進	ナ 総合優勝制町内対抗スポーツ大会 ニ 三戸町スポーツ賞表彰 ヌ 各種スポーツ大会補助事業 ネ 三戸町体育協会支援事業 ノ スポーツ指導者の養成・活用 ハ 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ） ヒ 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園） フ アップルドーム管理運営 ヘ パークゴルフ場管理運営 ホ 町民プール管理運営
	(6)芸術・文化活動の充実と文化財の保存	①芸術・文化活動機会の充実 ②後継者育成支援、発表機会の充実 ③文化財の保存及び活用	マ 三戸町立版画工房運営 ミ 芸術文化団体等補助事業 ム 南部俵づみ唄全国大会事業 メ 三戸町文化賞表彰 モ 三戸城跡保存活用事業 ヤ 歴史民俗資料館運営 ユ 地域学習サポート事業 ヨ 伝統芸能保存継承事業（再掲） ラ 歴史講演事業

1. 教育環境の整備促進等

(1) 小中一貫教育体制の充実

〔ア〕 小中一貫教育推進委員会									
事業の概要	<p>◆目的 小中一貫教育を推進するための基本方針に関することやその他の事項について検討し、必要に応じその結果を教育長に提言する。</p> <p>◆事業費 40千円（財源 一般40千円）</p>								
実績	<p>◆小中一貫教育推進委員会（令和8年3月24日）</p> <p>(1) 報告 令和7年度小中一貫教育の取組について</p> <p>(2) 協議 令和8年度小中一貫教育の取組と推進体制について (委員) 町内各学校長、学識経験者、三戸地方教育研究所指導主事</p>								
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者の指導助言により、検討課題とされた事項を改善することができた。 ・令和8年度の取組計画に対する承認と小中一貫教育推進体制を確認することができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中相互の乗り入れ授業や小学校間の交流授業の促進、基礎学力を定着させるパワーアップ学習の計画的な実施、9年間を見通した各教科の系統表の作成など、小中一貫教育の更なる推進に向けた継続的な協議が必要である。 								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充		改善		縮小	
継続	<input type="radio"/>	拡充							
改善		縮小							

(2) 就学支援等の充実

〔イ〕 要保護・準要保護児童生徒就学援助事業																
事業の概要	<p>◆目的 経済的に就学困難な児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。</p> <p>◆事業費 1,546千円（財源 国庫補助0千円・一般1,546千円）</p>															
実績	<p>◆支給実績</p> <p>(1) 支給費目 学用品費、新入学用品費、通学品費、医療費、校外活動費、修学旅行費</p> <p>(2) 認定状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要保護</td> <td>0名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>準要保護</td> <td>26名</td> <td>33名</td> </tr> <tr> <td>児童生徒に占める割合</td> <td>8.6%</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>支給額</td> <td>427千円</td> <td>1,119千円</td> </tr> </tbody> </table>		小学校	中学校	要保護	0名	1名	準要保護	26名	33名	児童生徒に占める割合	8.6%	17.4%	支給額	427千円	1,119千円
	小学校	中学校														
要保護	0名	1名														
準要保護	26名	33名														
児童生徒に占める割合	8.6%	17.4%														
支給額	427千円	1,119千円														
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的困窮世帯の児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担軽減につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 															
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充		改善		縮小								
継続	<input type="radio"/>	拡充														
改善		縮小														

〔ウ〕 特別支援教育就学奨励事業			
事業の概要	<p>◆目的 特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減のため、就学に必要な経費について一部を補助し、特別支援教育の普及奨励を図る。</p> <p>◆事業費 34千円（財源 国庫補助16千円・一般18千円）</p>		
実績	<p>◆支給内容</p> <p>(1) 支給費目 学用品費、新入学用品費、修学旅行費、校外活動費、オンライン通信費</p> <p>(2) 支給人数 小学校4名、中学校1名 合計5名（要・準要保護、辞退者除く）</p> <p>(3) 支給額 小学校 25,357円、中学校 8,539円</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級在籍児童生徒の就学機会の確保及び保護者の経済的負担の軽減につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小	

〔エ〕 奨学金貸与事業																					
事業の概要	<p>◆目的 経済的に修学困難な青少年の修学機会の確保並びに有用な人材育成のための支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基金総額 242,333千円 事業費（貸与額） 20,060千円 事業費（償還額） 11,025千円 																				
実績	<p>◆令和7年度貸与人数及び貸与額（カッコ内は令和7年度新規採用者）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基金区分</th> <th>貸与人数</th> <th>貸与額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人材育成基金</td> <td>18名（4名）</td> <td>7,960,000円</td> </tr> <tr> <td>高坂奨学基金</td> <td>7名（1名）</td> <td>2,290,000円</td> </tr> <tr> <td>岩井堅三奨学基金</td> <td>0名（0名）</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>佐藤義典奨学基金</td> <td>18名（5名）</td> <td>9,810,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>39名（10名）</td> <td>20,060,000円</td> </tr> </tbody> </table>			基金区分	貸与人数	貸与額	人材育成基金	18名（4名）	7,960,000円	高坂奨学基金	7名（1名）	2,290,000円	岩井堅三奨学基金	0名（0名）	0円	佐藤義典奨学基金	18名（5名）	9,810,000円	合計	39名（10名）	20,060,000円
基金区分	貸与人数	貸与額																			
人材育成基金	18名（4名）	7,960,000円																			
高坂奨学基金	7名（1名）	2,290,000円																			
岩井堅三奨学基金	0名（0名）	0円																			
佐藤義典奨学基金	18名（5名）	9,810,000円																			
合計	39名（10名）	20,060,000円																			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済的理由により修学困難な青少年の修学機会の確保につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定した滞納者がおり、経済的な理由から継続的な奨学金返済が困難となっている。 																				
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小	貸与型奨学金に加え、当町からの有望な人材輩出につながると見込まれる者に対し、修学のための給付型奨学金を創設。また、大学等の貸付上限月額を4万円から5万円へ引き上げる。																		

〔オ〕 学び応援！入学祝い金支給事業			
事業の概要	<p>◆目的 来年度、小学校・中学校に入学する児童生徒並びに高校等への進学・就職など新生活をスタートさせる者の保護者に対し、1人当たり10万円の「入学祝い金」を支給することにより、新入学等に係る費用に対する経済的負担の軽減を図る。</p> <p>◆事業費 15,500千円（財源 一般15,500千円）</p>		

実績	◆支給実績 (1) 小学校 39名 3,900千円 (2) 中学校 50名 5,000千円 (3) 高等学校等 66名 6,600千円 合計 155名 15,500千円
成果と課題	◆成果 ・対象者全員から申請が提出されており、入学時にかかる費用負担の軽減につながっていることがうかがえる。 ◆課題 ・特になし
事業の方向性	継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/>

〔カ〕 学び応援！習い事補助金	
事業の概要	◆目的 習い事を利用する小・中学生の保護者に対し、習い事にかかる費用の一部を補助することにより、保護者の経済的負担の軽減を図る。 ◆事業費 6,860千円 (財源 一般6,860千円)
実績	◆支給実績 (1) 小学生 148名 4,480,100円 (2) 中学生 55名 1,774,380円 合計 203名 6,254,480円
成果と課題	◆成果 利用率は小学生5割、中学生3割、全体では4割となっており、利用者の経済的負担軽減に繋がっている。 ◆課題 特になし
事業の方向性	継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/>

〔キ〕 学び応援！高校生修学支援金	
事業の概要	◆目的 町外の高等学校等へ修学している生徒の保護者に対し、生徒1人あたり年額5万円を支給することにより、保護者の経済的負担軽減を図る。 ◆事業費 725千円 (財源 一般725千円)
実績	◆支給実績 145名 7,250,000円
成果と課題	◆成果 ・保護者の経済的負担軽減を図ることができた。 ◆課題 ・対象者の把握が課題である。
事業の方向性	継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/>

(3) 教育活動支援のための補助事業の充実

〔ク〕 全国大会等児童生徒派遣費補助事業																	
事業の概要	<p>◆目的 体育活動及び文化活動の振興を通して、児童生徒の健全な育成を図ることを目的とし、全国大会等に出場するための経費について補助金を交付する。</p> <p>◆事業費 2, 214千円 (財源 一般2, 214千円)</p>																
実績	<p>◆補助金交付状況</p> <table border="0"> <tr> <td>・第52回東北地区空手道選手権大会 (個人)</td> <td>11,600円</td> </tr> <tr> <td>・第67回小学生・中学生全国空手道選手権大会 (個人)</td> <td>5,000円</td> </tr> <tr> <td>・第25回全日本少年少女空手道選手権大会 (個人)</td> <td>35,800円</td> </tr> <tr> <td>・第25回東日本学校吹奏楽大会 (三戸小)</td> <td>855,500円</td> </tr> <tr> <td>・第31回日本管楽合奏コンテスト全国大会 (三戸小)</td> <td>851,500円</td> </tr> <tr> <td>・第54回マーチングバンド・バトントワーリング東北大会 (スポーツ団体)</td> <td>150,000円</td> </tr> <tr> <td>・第38回全日本小学生相撲優勝大会 (スポーツ団体)</td> <td>72,700円</td> </tr> <tr> <td>・第53回バトントワーリング全国大会 (スポーツ団体)</td> <td>231,900円</td> </tr> </table>	・第52回東北地区空手道選手権大会 (個人)	11,600円	・第67回小学生・中学生全国空手道選手権大会 (個人)	5,000円	・第25回全日本少年少女空手道選手権大会 (個人)	35,800円	・第25回東日本学校吹奏楽大会 (三戸小)	855,500円	・第31回日本管楽合奏コンテスト全国大会 (三戸小)	851,500円	・第54回マーチングバンド・バトントワーリング東北大会 (スポーツ団体)	150,000円	・第38回全日本小学生相撲優勝大会 (スポーツ団体)	72,700円	・第53回バトントワーリング全国大会 (スポーツ団体)	231,900円
・第52回東北地区空手道選手権大会 (個人)	11,600円																
・第67回小学生・中学生全国空手道選手権大会 (個人)	5,000円																
・第25回全日本少年少女空手道選手権大会 (個人)	35,800円																
・第25回東日本学校吹奏楽大会 (三戸小)	855,500円																
・第31回日本管楽合奏コンテスト全国大会 (三戸小)	851,500円																
・第54回マーチングバンド・バトントワーリング東北大会 (スポーツ団体)	150,000円																
・第38回全日本小学生相撲優勝大会 (スポーツ団体)	72,700円																
・第53回バトントワーリング全国大会 (スポーツ団体)	231,900円																
成果と課題	<p>◆成果 ・大会へ参加することで、児童生徒の競技力向上や健全な育成につながるとともに、家庭の経済的な負担を軽減することができた。</p> <p>◆課題 ・特になし。</p>																
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充		改善		縮小									
継続	<input type="radio"/>	拡充															
改善		縮小															

〔ケ〕 中体連等派遣費補助事業									
事業の概要	<p>◆目的 体育活動及び文化活動の振興を通して、生徒の健全な育成を図ることを目的とし、中体連等の大会へ参加するための経費について補助金を交付する。</p> <p>◆事業費 4, 814千円 (財源 一般4, 814千円)</p>								
実績	<p>◆補助金交付状況</p> <table border="0"> <tr> <td>・三戸中学校</td> <td>4,366千円</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ団体等</td> <td>448千円</td> </tr> </table>	・三戸中学校	4,366千円	・スポーツ団体等	448千円				
・三戸中学校	4,366千円								
・スポーツ団体等	448千円								
成果と課題	<p>◆成果 ・各種大会へ参加することで、競技力向上や生徒の健全な育成につながるとともに、家庭の経済的な負担を軽減することができた。</p> <p>◆課題 ・特になし。</p>								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充		改善		縮小	
継続	<input type="radio"/>	拡充							
改善		縮小							

〔コ〕 教育振興協議会支援事業	
事業の概要	<p>◆目的 教育委員会、学校、地域の連携により、学校教育・社会教育の振興を図る。</p> <p>◆事業費 560, 928円 (財源 一般350, 000円 会費等210, 928円)</p>
実績	<p>◆教職員研修等に対する助成 (総額264, 572円)</p> <p>(1) 校内外研修補助費</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・三戸小、斗川小、三戸中 (2) 教育研究班事業助成 <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭研修会 ◆令和7年度子ども文化作品展の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年11月1日～3日 ・場 所 三戸町民体育館 ・内 容 児童生徒の芸術、文化教育振興のため子ども文化作品展を開催。 ◆令和7年度町長と語る会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和8年2月26日 ・場 所 三戸小・中学校 ・内 容 三戸小学校6年児童が町長と三戸町について語り合う会を開催。 ◆第62号「三戸の教育」の発行（印刷に係る消耗品費等107,195円） ◆幼保職員研修等に対する助成（総額60,000円） <ul style="list-style-type: none"> 幼保職員研修事業助成 <ul style="list-style-type: none"> ・三戸保育園、ミューズ保育園、いずみ幼稚園 ◆幼小連携の取組 <ul style="list-style-type: none"> 三戸小、斗川小、三戸中の授業参観に幼保職員が参観する取組みを実施。 								
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修、幼保職員研修では、各職員がそれぞれ学校運営、教育指導、保育指導に適した研修を行い、職員の資質向上、現場における指導力の向上につながっている。 ・子ども文化作品展においては、昨年度から町内小中学校の全児童生徒の作品を出展する形式に改めた。作品数911点、来場者のべ1,361人となり、来場者数の増並びに児童・生徒の文化的資質の向上が図られた。 ・町長と語る会においては、児童・生徒が町長と語り合うことで、ふるさとに対する意識や豊かなふるさとを創造していこうとする意欲の向上が図られた。 ・幼小連携については、昨年度開催した幼保小連携研修会で照会された取組事例を参考に、各小中学校の授業参観に幼保職員が参観する取組みを実施。各園の卒園生の学校での過ごし方等の情報共有が図られた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> ・学校数、生徒数の減少により、各行事等の協力体制及び会費の減が課題となっている。 								
事業の方向性	<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">継続</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;">拡充</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td>○</td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続		拡充		改善	○	縮小	
継続		拡充							
改善	○	縮小							

〔サ〕 学び応援！修学旅行費補助金	
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆目的 <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行に参加する小・中学生の保護者及び引率教職員に対し修学旅行に係る経費を補助することにより、経済的負担軽減を図り、児童生徒の健全な育成を支援する。（小学生：上限5万円、中学生：上限10万円、引率教職員：入場料及び見学科全額）。 ◆事業費 8,944千円（財源 一般8,944千円）
実績	<ul style="list-style-type: none"> ◆支給実績 <ul style="list-style-type: none"> (1) 小学生 49名 2,422,188円 (2) 中学生 64名 6,400,000円 (3) 引率教職員 12名 121,500円
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者及び引率教職員の経済的負担軽減に繋がっている。 ◆課題

	・なし。		
事業の方向性	継続	○	拡充
	改善		縮小

〔シ〕 小中学生芸術鑑賞教室			
事業の概要	<p>◆目的 児童生徒の情操や、豊かな感受性を育むための教育活動として、演劇・音楽鑑賞等の公演を実施する。</p> <p>◆事業費 410千円（財源 一般410千円）</p>		
実績	<p>◆概要</p> <p>開催日 令和7年9月18日（木）</p> <p>公演会場 小中一貫三戸学園三戸町立三戸小・中学校</p> <p>公演名 金管五重奏「にぎやかラッパのコンサート」</p> <p>公演業者 仙台ミュージックプラザ</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演を実施することで、芸術文化に親しみ楽しむ態度が養われるとともに、豊かな感受性の育成及び表現力の向上等に繋がった。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して公演を実施する。 		
事業の方向性	継続	○	拡充
	改善		縮小

（４）その他教育行政の推進

〔ス〕 スクールバス等運行事業			
事業の概要	<p>◆目的 遠距離児童生徒の通学手段確保を目的とし、通学バス・タクシーを運行する。</p> <p>◆事業費 42,484千円（財源 国庫290千円・一般42,194千円）</p>		
実績	<p>◆通学バス運行事業（小52名、中53名）</p> <p>（１）路線 ①三戸小・三戸中目時地区（三戸中は登校のみ）16名 ②三戸小貝守地区 29名（うち松原11名） ③三戸小蛇沼地区 3名 ④斗川小大舌地区 8名 ⑤三戸中貝守地区 21名（うち松原8名） ⑥三戸中斗内地区 22名 ⑦三戸中蛇沼地区 6名</p> <p>（２）運行回数 三戸小学校は年間227日、登校1回・下校2回（低学年・高学年） 斗川小学校は年間202日、登校1回・下校2回（低学年・高学年） 三戸中学校は年間227日、登校1回・下校1回</p> <p>◆通学タクシー運行事業（小1名、中15名）</p> <p>（１）路線 ①三戸小・三戸中蛇沼地区 7名（小1名） ②三戸中目時地区（下校のみ） 6名 ③三戸中大舌地区 3名</p> <p>（２）運行回数 通学バスに同じ</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故なく、通学バス・タクシーが運行されており、遠距離通学児童生徒の通学の便宜 		

	と安全が確保されている。		
	◆課題 ・今後も効率的かつ安全な運行方法について検討を継続していく。		
事業の方向性	継続改善	○ 拡大 ○ 縮小	令和7年度は児童・生徒のバス待機時間の短縮のために、運行時刻の変更を行った。

〔セ〕 部活動バス・部活動支援バス運行事業			
事業の概要	◆目的 部活動における遠征時や学校行事等における移動を部活動バス、部活動支援バスで行うことにより、保護者の負担軽減を図る。 ◆事業費 部活動バス運行事業 1,000千円(財源 一般1,000千円) 部活動支援バス事業 1,900千円(財源 一般1,900千円)		
実績	◆運行回数及び乗車人数 (1) 部活動バス 102回 延べ2021人 (2) 部活動支援バス 15回 延べ437人		
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の部活動や校外活動時の移動手段として有効活用され、児童生徒や保護者の負担軽減につながっている。 ◆課題 ・今後も効率的かつ安全な運行方法について検討し、児童生徒や保護者の負担軽減を図っていく。		
事業の方向性	継続改善	○ 拡大 ○ 縮小	

〔ソ〕 児童・生徒・教職員健康診断及び就学時健診			
事業の概要	◆目的 学校保健安全法に基づき、児童・生徒及び教職員の健康診断の実施と事後措置を行い、早期発見・早期治療を勧め、健康管理と健康保持促進を図り、学校教育の円滑な実施を図る。 ◆事業費 3,002千円(財源 一般3,002千円)		
実績	◆概要 (1) 児童生徒健診 就学時健診 就学前児童 37名 心電図検査 1年・4年・7年 139名 耳鼻科健診 全児童生徒 452名 眼科健診 全児童生徒 452名 歯科健診 全児童生徒 452名 内科健診 全児童生徒 452名 尿検査 全児童生徒 446名 貧血検査 5年・8年 90名 (2) 教職員健診 定期健診 35名 胃ガン検診 40歳以上希望者 13名 大腸ガン検診 40歳以上希望者 16名 ストレスチェック 全教職員 54名		
成果と課題	◆成果 ・学校及び医療機関と綿密な連絡調整の下、全ての健診において円滑に実施することができた。		

	◆課題 ・耳鼻科健診は医師の都合上1回のみの実施であり、全学校が1校に移動、集合して行うことから、行事調整や授業時数確保の面で学校側に大きな負担を強いている。		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小	

〔タ〕 コミュニティ・スクール運営事業			
事業の概要	◆目的 学校と地域がつながることで、児童生徒をとりまく課題を円滑に解決するとともに、「地域とともにある学校」を目指し、より良い学校運営を推進する。 ◆事業費 168千円（財源 一般168千円）		
実績	◆小中一貫三戸学園コミュニティ・スクール委員会 委員 19名 ◆開催日数 父母と教師の会、PTA、町内会、観光協会、商工会、地域おこし協力隊員等を以て組織する「小中一貫三戸学園コミュニティ・スクール委員会」を3回開催したもの。		
成果と課題	◆成果 ・三戸学園や各校で抱える課題について、コミュニティ・スクール委員会や地域住民の協力を得た上で解決できるよう、グループや全体での討議を通じて方向性を見出すことができた。 ・三戸小・中と斗川小の関係者が一堂に会し、学園の運営方針について理解を深めるとともに、小中一貫校としての学校評価に関する意見を集約することができた。 ◆課題 ・三戸学園や各校で抱える課題の解決に向けて、コミュニティ・スクール委員会が積極的に関わり、実現かつ持続的に協力できるよう、委嘱する委員や会議の持ち方、討議の内容、地域住民への情報発信の方法などを検討していく必要がある。		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小	

〔チ〕 部活動地域展開支援事業			
事業の概要	◆目的 少子化が進む中で、将来にわたって子どもたちがスポーツに親しめる環境を整備することを目的に、休日の部活動を地域に移行していく。 ◆事業費 205千円（財源 県補助159千円・一般46千円）		
実績	◆謝金 柔道ジュニアクラブ：162,260円、卓球ジュニアクラブ：42,300円 ◆実施日数 柔道ジュニアクラブ：20日、卓球ジュニアクラブ：13日		
成果と課題	◆成果 ・専門性の高い指導者から技術練習等する機会を多く設けることができた。 ・教職員の休日の負担を軽減することができた。 ・生徒のやりたいスポーツができる環境を整備することができた。 ・小中一貫教育の中で、小学生もジュニアクラブに参加することで、中学生と一緒に活動することができた。 ◆課題 ・部活動の受け皿となるジュニアクラブの種目を増やしていく必要がある。		

事業の方向性	継続改善	○	拡充	
			縮小	

〔ツ〕 学習習慣形成事業（学習コーチ・探究コーチ事業）	
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>学習コーチでは、予習・復習のやり方、記憶方法、問題集の使い方といった「勉強のやり方」や作文の書き方について講演会を実施し、児童生徒が効率的な学習方法を身につけ学習の習慣化を目指す。</p> <p>探究コーチでは、日常の疑問から自ら問いを立て調べる探究学習を通じて「勉強する意味」について講演会を実施し、児童生徒の興味関心を各教科の意欲的な学習につなげることを目指す。</p> <p>◆事業費 1,300千円（財源 一般1,300千円）</p>
実績	<p>◆講演会等の実施</p> <p>(1) 学習コーチ講演会（講師：(株)プラスティ教育研究所 代表取締役 清水章弘氏）</p> <p>ア 実施日 令和7年6月20日（金）</p> <p>場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校8年生（61名）</p> <p>内 容 学習コーチ講演会「勉強のやり方と作文の書き方」</p> <p>予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や効果的な記憶方法、意見・理由・経験・結論で自分の考えをまとめる作文の書き方について講演を行った。</p> <p>イ 実施日 令和7年6月20日（金）</p> <p>場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校7年生（61名）</p> <p>内 容 学習コーチ講演会「勉強のやり方と作文の書き方」</p> <p>予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や効果的な記憶方法、意見・理由・経験・結論で自分の考えをまとめる作文の書き方について講演を行った。</p> <p>ウ 実施日 令和7年11月14日（金）</p> <p>場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>対 象 小中一貫三戸学園三戸小学校・斗川小学校6年生（47名）</p> <p>内 容 7年生進級前ガイダンス「中学生からの勉強のやり方」</p> <p>予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や問題集の使い方についてガイダンスを行った。</p> <p>エ 実施日 令和7年11月14日（金）</p> <p>場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校9年生（67名）</p> <p>内 容 9年生受検前ガイダンス「勉強のやり方と悩みごとへのアドバイス」</p> <p>予習・授業・復習・テストのサイクルに基づいた具体的な勉強方法や効果的な学習方法についてガイダンスを行うとともに、受検勉強をする中での悩みごとへのアドバイスを行った。</p> <p>(2) 探究コーチ講演会（講師：(株)プラスティ教育研究所 安原和貴氏）</p> <p>ア 実施日 令和7年11月25日（火）</p> <p>場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>対 象 小中一貫三戸学園三戸小学校・斗川小学校6年生（47名）</p> <p>内 容 探究コーチ講演会</p>

	<p>色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</p> <p>イ 実施日 令和7年11月25日（火） 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校9年生（67名） 内 容 探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</p> <p>ウ 実施日 令和7年11月26日（水） 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校（オンライン） 対 象 小中一貫三戸学園三戸小学校5年生（47名） 内 容 探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</p> <p>エ 実施日 令和7年11月26日（水） 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校（オンライン） 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校7年生（61名） 内 容 探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</p> <p>オ 実施日 令和7年11月28日（金） 場 所 小中一貫三戸学園三戸小・中学校（オンライン） 対 象 小中一貫三戸学園三戸中学校8年生（61名） 内 容 探究コーチ講演会 色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、勉強に対する興味関心を持たせる講演を行った。また、新聞のコラム記事を課題文として、自分の考えを200文字で表現できるよう探究学習を行った。</p>
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が学習習慣を意識し、自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけるための動機付けができた。 ・中学生進級前の児童や、受検を控えた生徒に対して、勉強に対する不安を解消し、今、何をどのようにするべきかを示すことができた。 ・7年生進級前ガイダンスの実施により、学習や生活の大きな変化による「中1ギャップ」を生じやすい6年生に対し、進級前の不安や心理的段差を緩やかにし、進級への期待を増すことができた。 ・色々なニュースや最新技術など身近な情報を活用した探究学習から「勉強する意味」を見出し、児童生徒の勉強に対する興味関心を持たせることができた。

	◆課題 ・特になし			
事業の 方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善		縮小	

〔テ〕 三戸町立学校給食共同調理場運営事業				
事業の 概要	◆目的 学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導を行い、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図る。 ◆事業費 特別会計（給食材料費） 40,329千円（財源 国県交付金及び町） 一般会計（共同調理場運営費） 85,693千円（財源 国県交付金及び町）			
実績	◆概要 児童生徒及び教職員等618名の給食対象者に対し、199日間、児童48,512食、生徒45,842食、教職員等14,663食、合計109,017食の完全給食を提供した。			
成果と 課題	◆成果 ・食の出前授業や教育現場の先生方による給食指導を行っている。 ・地元産品活用の取り組みにより、児童が給食を完食するなど、給食に対する感謝の心が育まれている。 ◆課題 ・平成13年の調理場の建設から24年以上が経過し、施設・設備や調理機器の経年劣化による故障が増えている。修繕では対応が難しいものもあり、計画的な機器更新が必要である。 ・海藻類、根菜類を使用した料理の残食量が多いため、食の指導等を通じて残食量軽減に取り組む必要がある。 ・2年連続の米価の高騰や原油価格の上昇、ウクライナ情勢や円安の進行などの影響により、食品及び輸送のコストが上昇している。これにより、従前の給食費による給食の調理提供が難しくなり、給食費の値上げを行った。			
事業の 方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善		縮小	

〔ト〕 小中学校給食無償化事業				
事業の 概要	◆目的 物価高騰による保護者負担の軽減を図るとともに、保護者が安心して育てられる教育環境を整備する。 ◆事業費 学校給食無償化分繰入金 25,549千円（財源 国県交付金及び町）			
実績	◆概要 児童生徒396名の給食対象者に対し、児童44,366食、生徒26,609食、合計70,975食を無償化した。			
成果と 課題	◆成果 ・物価が高騰している中、給食費が軽減されることで、子育て世帯の家計に大きな支援になっている。			

	<ul style="list-style-type: none"> 給食費を集金しないことで、教職員の業務の負担軽減につながっている。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題 無償化したことで、欠食の管理が甘くなっているとの懸念がある。 		
事業の方向性	継続 改善	○ 縮小	拡充 縮小

〔ナ〕 三戸高等学校との連携推進（魅力化推進事業補助金）			
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◆目的 三戸町内の小中学校と連携協定を締結した三戸高校で、郡内唯一の普通高校としての魅力化を町が支援し、小中高12年間の接続を強みとした連携を推進するとともに、PTAが行う生徒にとって魅力ある学校づくりに資する各種事業に対し、補助金を交付する。 ◆事業費 3,500千円（財源 一般3,500千円） 		
実績	<ul style="list-style-type: none"> ◆補助金の交付 【検定料等支援事業】599,300円 ビジネス文書実務検定：3級27名、2級34名、1級15名 情報処理検定：3級18名、2級20名、1級4名 ビジネス計算実務検定：3級30名、2級34名、1級5名 簿記実務検定：3級18名、2級17名、1級3名 家庭科技術検定（食物調理）：4級19名、3級12名 漢字検定：4級1名、3級13名、準2級8名、2級6名 英語検定：3級14名、準2級11名、準2級プラス2名、2級4名 延べ人数315名 (受検者数/全校生徒) R3:277/114・R4:409/88・R5:357/85・R6:321/80・R7:315/85 【遠距離通学者支援事業】1,297,000円 (町外) 南部中学校区：12名、名川中学校区：2名、福地中学校区：2名、田子中学校区：16名（うち4名上郷地区、うち1名7/24その他八戸市中学区へ転居）、三条中学校区：4名、その他八戸市中学校区：2名（うち1名7/24田子中学区から転居） (町内) 旧蛇沼小学校区：1名、旧目時小学校区：1名、旧大舌小学校区：1名 対象者数40名 【進路達成支援事業】1,100,770円 プラスティー小論文対策講座10回分 【部活動振興事業】502,930円 春季大会及び高総体並びに新人戦生徒宿泊費、高総体バス借上料補助 		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 資格取得支援について、意欲的に挑戦する生徒を支援することができた。 進路達成に向けた支援の小論文対策講座は、生徒や進路指導部からの評価が高い。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 資格取得の全額が補助対象であるため、合格に向けた努力が見られない生徒がいる。 		
事業の方向性	継続 改善	○ 縮小	拡充 縮小
資格取得に向けた意欲向上や、進路達成支援のニーズをふまえ、補助金交付要綱の一部を見直す。			

〔二〕 三戸高等学校との連携推進（高校昼食提供事業）			
事業の概要	<p>◆目的 三戸高校の入学者増を促進する魅力化事業の一環として、保護者の負担を軽減し、同時に安価で栄養バランスのとれた昼食を提供する。</p> <p>◆事業費 5,360千円（財源 町負担の給食費5,089千円）</p>		
実績	<p>◆概要 生徒84人及び教職員5人の昼食申込者に対し、170日間、生徒13,256食、教職員等704食、合計13,960食の昼食を提供した。</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担を軽減し、安価で栄養バランスのとれた昼食を提供した。 ・昼食を無償化することで、保護者の経済的負担を軽減した。 ・全生徒85人のうち84人が申込しており、大部分が事業効果を享受している。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無償提供により金銭意識が希薄化し、残食が多いのではないかと懸念がある。 		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小	

〔ヌ〕 三戸高等学校との連携推進（三戸高校魅力化コーディネーター設置事業）			
事業の概要	<p>◆目的 三戸高校において、三戸高校特有の魅力的な学びを創出し、多くの生徒が全国から集まるような教育活動へ支援することを目的に、地域おこし協力隊員を1名設置する。</p> <p>◆事業費 4,986千円（財源 一般4,986千円）</p>		
実績	<p>◆概要 地域みらい留学における全国の中학생に対する三戸高校の魅力発信や、全国募集により入学した生徒7名の生活支援を行った。また、総合的な探究の時間における授業支援や令和5年度に新設したクリエイティ部の活動支援、協力隊新聞やSNS等による広報活動を行った。このほか、生徒に対する昼食提供の支援を行った。</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の中學生に対して、高校や町の魅力を十分に発信することができた。 ・授業やクリエイティ部の活動を支援し、町のPRポスターとPR動画（CM）を制作することができた。 ・協力隊新聞を毎月発行し、活動状況や高校の魅力を町民に周知できた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の活動拠点は教育委員会事務局であるが、三戸高校内にも活動拠点を置くことができるよう高校と協議が必要である。 		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小	地域おこし協力隊制度の交付税措置が満期の3年となることから、継続して会計年度任用職員として三戸高校コーディネーターを配置する。

〔ネ〕 学校における働き方改革推進事業			
事業の概要	<p>◆目的 青森県学校における働き方改革推進事業費補助金を活用し、学校における働き方改革の推進のための環境整備を実施する</p> <p>◆事業費 2,538千円（財源 県補助金1,187千円、一般1,351千円）</p>		
実績	<p>◆概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムの運用 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連絡ツールである「テトル」の集金機能サービスの導入 ・三戸小・中学校へ、勤務時間外の自動音声による電話対応機器の導入 		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合型校務支援システムの導入・運用により、教職員の事務負担の軽減に寄与している ・テトル集金機能の導入により、毎月の集金業務における学校事務・保護者の負担軽減に寄与している。 ・勤務時間外の自動音声による電話対応機器の導入により、教職員の勤務時間の確保に寄与している。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に無し 		
事業の方向性	継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="checkbox"/>	拡大 <input type="radio"/> 縮小 <input type="checkbox"/>	来年度に向け、さらに学校における働き方改革の推進のための環境整備を促進する。

2. 学校教育指導の重点

(1) 小中一貫教育の推進

〔ア〕 三戸町学校教育研究大会				
事業の概要	<p>◆目的 町の教育方針や小中一貫教育に関する概要を示すことで、教職員が一丸となって小中一貫教育を推進する機運を醸成する。</p> <p>◆事業費 95千円</p>			
実績	<p>◆概要</p> <p>(1) 日程：令和7年4月18日（金）</p> <p>(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2体育館」</p> <p>(3) 対象：町内全教職員</p> <p>(4) 内容：①三戸町の教育基本方針と小中一貫教育について（慶長教育長） ②小中一貫三戸学園における英語科について （弘前大学教育学部准教授 佐藤剛氏） ③講演会『探究・提言型』総合的学習の実践的提案 （京都大原学院京都市立大原小中学校長 瀧本祐一郎氏） ④令和7年度小中一貫教育推進体制について（小林学力向上対策監）</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 三戸町の教育方針や小中一貫教育で目指す子ども像について、小中一貫三戸学園を構成する教職員が一堂に会する場で示し、教育体制の強化を図ることができた。 講演会では、京都大原学院京都市立大原小中学校長 瀧本祐一郎氏を講師に迎え、『探究・提言型』総合的学習の実践的提案と題してご講演をいただき、コミュニティースクールとして「里の力」と学校で支える9年間の学び、最終的な「大原提言」への取り組みについて学んだ。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、外部講師を迎えるスタイルではなく、三戸町の小中一貫教育について教職員の理解を深め、義務教育9年間を通して、系統的・継続的な一貫性のある小中一貫教育を展開するため、教育委員会からのメッセージを直接伝える学校教育研究大会とする必要がある。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	町内の全教職員が一堂に会することから、教育委員会の重点施策や教育活動を理解する有効な機会と捉え、内容の充実を図りながら継続する。
	改善		縮小	

〔イ〕 小中一貫教育推進事業			
事業の概要	<p>◆目的 義務教育の9年間を一貫して捉える小中一貫教育を一層推進していくため、具体的手法の研究や制度運用の評価改善を行いながら、当町特有の教育制度の推進を図る。</p> <p>◆事業費 30千円（財源 一般30千円）</p>		
実績	<p>◆概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 転入教職員に対する小中一貫教育説明会の開催 三戸町の小中一貫教育について、転入教職員が一堂に会する場で教育委員会から説明を行い、共通理解を深めた。 <p>(1) 日程：令和7年4月3日（木）</p> <p>(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>(3) 対象：町内転入教職員</p> <p>(4) 内容：三戸町小中一貫教育に関する説明</p>		

・小中一貫教育専門委員会・プロジェクトチームの開催

専門委員会は各教科部会、教育支援部会、保健部会、事務部会の11の部会で構成され、各教科部会では学力の向上対策や授業の進め方、授業におけるICT機器の活用、パワーアップ学習の活用、小中相互の乗り入れ授業、TT指導の推進、9年間を見通した系統表の作成、学力向上対策などの事項について協議を行った。なお、今年度は音楽部会、図工・美術部会、保健体育部会、技術・家庭部会の技能教科については、技能教科部会として1つの部会で協議を行った。

また、プロジェクトチームは英語科と立志科で編成され、英語科では、3年目になる弘前大学との共同研究により、「三戸学園CAN-DOリスト」を活用した授業、特に「サキドリ」や「オサライオン」を取り入れた授業実践やENGLISH DAYの現状と課題について、英語検定につながる「三戸チャレンジテスト」のテストを試行し、結果などについて協議を行った。

立志科では、年間指導計画と指導例の見直し、各教科ごとに系統性を踏まえたについて協議を行った。また、「立志科における外部講師一覧表」を作成した。

- (1) 日程：第1回 令和7年4月18日(金)
第2回 令和7年8月6日(水)
第3回 令和7年11月19日(水)
- (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校内教室
- (3) 対象：町内全教職員

○第1回小中一貫教育研修会の開催

義務教育9年間を通して、系統的・継続的な一貫性のある教育を実践するため、教職員の相互理解を深め、小中一貫教育の深化・充実を図った。

- (1) 日程：令和7年8月6日(水)
- (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」
- (3) 対象：町内全教職員
- (4) 内容：ア全体会・・・事務局から今年度の取組について
イ専門委員会、プロジェクトチームごとに協議

○第2回小中一貫教育研修会の開催

昨年度まで授業交流会としていたが研修会に名称を変更した。

11月に新たに就任した原教育長が全教職員を前に挨拶をおこなった。

三戸学園小中一貫教育にかかる思いを伝えた。義務教育9年間を一貫として捉えた教育を実践するため、参加教職員が具体的な指導方法を確認し、指導の充実を図った。

- (1) 日程：令和7年11月19日(水)
- (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校
- (3) 対象：町内全教職員
- (4) 内容：ア第9回日本義務教育学会研究大会参加報告(三戸小中 種市中等部教頭)
イ英語科プロジェクトチーム経過報告(三戸小中 小泉高等部教務主任)
立志科プロジェクトチーム経過報告(教育委員会事務局 学力向上対策監)

○小中一貫教育実施委員会の開催

令和7年度における小中一貫教育の課題や懸案事項について、解決に向けた協議を行い、小中一貫教育推進委員会に対して提案する具体的方策を決定した。

- (1) 日程：令和8年3月3日(火)

	<p>(2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」</p> <p>(3) 委員：教頭、教務主任、三戸地方教育研究所指導主事、教育委員会</p> <p>(4) 内容：小中相互の乗り入れ授業・交流授業、パワーアップ学習、立志科、英語科、学力向上、児童生徒の指導、三戸高校と連携した取組等</p> <p>○小中一貫教育推進委員会の開催 小中一貫教育を推進するための基本方針に関することやその他の事項について検討した。</p> <p>(1) 日程：令和8年3月24日（火）</p> <p>(2) 場所：三戸町役場4階「大会議室」</p> <p>(3) 委員：校長、学識経験者、三戸地方教育研究所指導主事</p> <p>(4) 内容：小中一貫教育の推進に関する事項等</p>								
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科部会を開催することで、横断的な連携を図ることができ、9年間を見通した具体的な方策を検討することができた。 社会科部会においては、デジタル副読本の内容について協議を行い、更新することができた。 保健部会では年5回開催し、新たに三戸高校の養護教諭も交えて小中高の接続した観点から町内児童生徒の健康管理に関する協議を行った。 小中一貫教育研修会では、英語科プロジェクトチームや立志科プロジェクトチームの取組について全教職員で共有することができた。 実施委員会では、小中一貫教育を進める中で、今年度の課題や懸案事項などの解決に向けた協議を行い、推進委員会に対して提案する具体的方策を検討した。 推進委員会では、今年度の実施状況を報告し、また、実施委員会で検討した事項の協議を行い、令和8年度における三戸町小中一貫教育の方向性を示すことができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 立志科プロジェクトチームは、教頭、教務主任、学年主任で組織され、立志科授業の進捗状況についての把握が不十分であることから、学級担任も含めるなど再構成を図り、部会の充実につなげていく必要がある。 教育研究大会では3年連続で講師を招聘していたが、専門委員会等の協議時間が十分に確保できていなかったことから、全教職員に対して、令和8年度の教育施策等を丁寧に説明し、また、専門委員会等の時間を十分に確保して、教職員の小中一貫教育充実に向けた意識啓発の機会にする必要がある。 								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td>○</td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	○	拡充		改善		縮小	
継続	○	拡充							
改善		縮小							

〔ウ〕 特色ある教育活動推進事業（三戸地方教育研究所）	
事業の概要	<p>◆目的 三戸町・田子町が個々に抱えている教育課題を解決するため、各町が行う特色ある教育活動や教員研修並びに教育推進研究の支援を通し、当該教育課題の解決に資する。</p> <p>◆事業費 125千円（三戸町分）</p>
実績	<p>◆夏休みにも親子で体を動かそう！2 コーディネーショントレーニング体験 講師 NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会普及員 乗田 俊子 氏</p> <p>◆校内研修特別授業コーディネーショントレーニング 講師 NPO法人日本コーディネーショントレーニング協会普及員 乗田 俊子 氏</p> <p>◆盲導犬小中学校キャラバン</p>

	講師 日本盲導犬協会 ◆弘前大学教育プログラム開発事業出前講座 職員事前研修「ベジチェックを体験してみよう」 実施者 三戸小中学校 養護教諭 山美 郁子 氏、谷内 洋子 氏 ◆立志科「食育講演会」 講師 元西日本新聞社 編集委員 チーム食卓の向こう側 主宰 佐藤 弘 氏								
成果と課題	◆成果 ・二町の各教育委員会及び各校の特色ある教育活動のために利用することができた。 ◆課題 ・二町の各教育委員会及び各校において事業の活用が図られるよう、来年度においても引き続き周知の徹底に努めていく。								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td>○</td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	○	拡充		改善		縮小	
継続	○	拡充							
改善		縮小							

〔エ〕 小中乗り入れ授業実施				
事業の概要	◆目的 三戸町小中一貫教育要領に定める教科の指導にあたり、中学校の教員が5、6年生に対して、専門性を活かした授業を行い、教科への興味や関心を高めるとともに、チームティーチングにより、児童の状況に応じて授業を進める先生と、個別対応する先生と役割分担をし、きめ細かく行き届いた指導を目指す。 ◆事業費 0千円			
実績	◆三戸小中学校においては、学年や教科により下表のとおり実施。			
	学年	教科	週あたり時間数	指導の形態
	5	音楽	1. 5	小学校の教員が授業を進め、中学校の音楽科教員がT2としてサポートする。
		図工	1. 5	ほぼすべての授業で、単元により中学校の美術科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		体育	2. 5	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		英語		今年度実施せず。
	6	音楽	1. 5	小学校の教員が授業を進め、中学校の音楽科教員がT2としてサポートする。
		図工	1. 5	ほぼすべての授業で、中学校の美術科教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		算数	5 実質3	小学校の教員が中学校の数学科教員とともに、習熟度別にクラスを分け、少人数指導を行う。
		体育	2. 5	ほぼすべての授業で、中学校の保健体育教員が専科指導し、指導内容により、学級担任が個別対応する。
		英語		今年度実施せず。
	※斗川小学校においては、今年度6年生の児童が在籍しなかったため、三戸中学校の英語科教員による授業支援を実施しなかった。次年度は計画予定。			
成果と	◆成果			

課題	<ul style="list-style-type: none"> 5、6年生にとっては、中学校教員が専門性を活かして授業に参加したことにより、より教科に対する興味や関心が見られた。 特に技能教科では、指導内容の連続性が担保されたり、教材選択の工夫がしやすかったりと、効果的な教員の指導や児童生徒の理解につながっている。 音楽科による5、6年生の指導により、卒業式などの式歌などで素晴らしい歌声を響かせてくれた。 小学生の段階から中学校教員と交流することでスムーズな進学(進級)につながっていることから中1ギャップの解消に効果が見られた。 小中の教員にとっては、相互に指導内容における9年間の系統性を、児童生徒の様子を見ながら指導できた。 小中の教員が、授業で接することで児童生徒の情報交換や、学習展開についての協議等が行われることで、協働意識が芽生え、組織的な教育活動の充実につながっている。 5、6年生が中学校教員による乗り入れを楽しみにしている。 中学校教員の専科指導により、小学校教員の負担軽減につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り入れ授業の内容(教科・頻度)は、教員の配置(所持免許)により左右される。 小学校から中学校への乗り入れ授業が実施できていない。 ティームティーチングによる指導が展開されず、中学校の専科教員のみ対応している場合があるとの報告があることから、今後に向けて現状と課題の把握を図る必要がある。 中学校教員の負担感があることから、小中一貫教育の目指す姿を、毎年全教職員で共有する機会が必要である。 斗川小学校において技能教科も乗り入れ授業ができるよう検討が必要である。 			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	各教科部会等においてティームティーチングによる役割分担を明確にし、授業の質の向上と教員の負担軽減に努めるとともに、より効果的な乗り入れ授業の実践に努める。

〔オ〕 小中一貫教育支援特別講師設置事業				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>小中一貫教育における中学校から小学校への乗り入れ授業や、不登校傾向や発達障害の疑いのある生徒に対する生徒指導の充実のため、小中一貫教育支援特別講師を設置する。</p> <p>◆事業費 10,182千円(財源 一般10,182千円)</p>			
実績	<p>◆配置状況(全3名)</p> <p>三戸中学校3名(英語科、数学科、生徒指導の各1名)</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ティームティーチング、習熟度別等のクラス分けによる少人数指導、一斉授業における個別指導、生徒指導を行ううえで特別な配慮を要する生徒への支援など、ニーズに応じたきめ細やかな教育活動を展開することができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒間の習熟度に大きな開きがあり、一斉授業では指導しきれない部分について、教諭と特別講師の役割を明確にし、下位の底上げと上位の伸展につながるような活用方法を更に工夫する必要がある。 			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔カ〕 英語科教育コーディネート事業	
事業の概要	<p>◆目的 弘前大学教育学部佐藤剛准教授との共同研究により三戸町小中一貫教育における9年間を見通した英語科指導の確立を図る。</p> <p>◆事業費 181千円（財源 一般181千円）</p>
実績	<p>◆概要</p> <p>○第1回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和7年4月18日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2理科室」 (3) 対象：弘前大学佐藤准教授、 英語科・・・相馬、川村、中山（三戸小）、小泉、加藤、山沢（三戸中） 田丸（斗川小）、シェリー、ゾーイ（ALT）、馬場（教委事務局） (4) 対象：2ヶ月に1か程度、研修を予定すること、三戸学園チャレンジテスト（Grade6～8の1次テスト・2次テスト）の問題の検証すること、英語の授業にリテリングを取り入れた授業へ挑戦することについて協議を行った。</p> <p>○第2回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和7年8月6日（水） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2理科室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員、弘前大学佐藤准教授 (4) 内容：三戸チャレンジテストの具体的な取組について協議した。具体的にはENGLISH DAYの放課後に行うこと、grade8は1・2年レベル、Grade7は3・4年レベル、Grade6は5・6年レベルの1次、2次テストの問題とすること、普段の学習内容に結びつくこと、合格証を作成することなどである。</p> <p>○第3回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和7年9月19日（金） (2) 場所：小中一貫三戸学園斗川小学校、三戸小・中学校「第1会議室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 弘前大学佐藤准教授、弘前大学学生3名参加 (4) 内容：斗川小3年英語授業参観、三戸小中7年英語授業参観、ENGLISH DAYの様子県学、三戸学園Can Doリストの活用状況、三戸チャレンジテストの問題内容についての協議を行った。</p> <p>○第4回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和7年11月19日（水） (2) 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「第2理科室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 弘前大学佐藤准教授、弘前大学佐藤准教授、弘前大学学生3名参加 (4) 内容：三戸チャレンジテスト、「サキドリ」や「オサライオン」を取り入れた授業について協議を行った。</p> <p>○第5回英語科プロジェクトチームにおける協議 (1) 日程：令和8年3月2日（月） (2) 場所：小中一貫三戸学園斗川小学校、三戸小・中学校「第2会議室」 (3) 対象：英語科プロジェクトチーム所属教員 弘前大学佐藤准教授、弘前大学学生6名参加 (4) 内容：三戸小中9年「サキドリ」を取り入れた英語授業参観、8年「オサライオン」を取り入れた授業参観、授業参観を通しての協議、English dayの取組状況に</p>

	<p>ついて、三戸チャレンジテストの取組状況について、オサライオンとサキドリの現状と課題、ALTの役割について協議し、佐藤先生から指導助言をいただいた</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫三戸学園全体でENGLISH DAYを実施し、取組状況を検証することができた。 ・児童の到達度を計る三戸テストの素案を作成し、テストを試行することができた。 ・「サキドリ」と「オサライオン」の提案授業を参観し、協議することができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サキドリ」と「オサライオン」を取り入れた授業を毎時間、導入場面あるいは終末場面で5分から8分程度、いかに取り入れるか課題として残った。 ・英語科プロジェクトチームの開催に当たり、斗川小の部員の日程調整が困難であるため、4月の教育研究大会後の第1回プロジェクトチームにおいて年間開催計画を立てる必要がある。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(2) 授業の充実

〔キ〕 授業技術研修講座（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	<p>◆目的 授業参観、協議及び助言を通し、学級経営や授業実践に関する支援を行うことにより、三戸町及び田子町の教育活動に資する。</p> <p>◆事業費 19千円（うち三戸町分 14千円）</p>			
実績	<p>◆実施校 2校（うち三戸町1校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三戸学園 4学年算数（3回） 4学年体育（1回） 7学年体育（2回） 9学年体育（1回） 田子小学校 3学年算数（2回） <p>・指導助言者（3名）大島 朋幸 主任指導主事（三八教育事務所） 林 可人 指導主事兼社会教育指導主事（三八教育事務所） 対馬 康弘 教頭（五戸町立倉石中学校）</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や協議を通して、教員が自らの授業を客観的に振り返る機会となり、授業改善への意識の向上につながった。 ・助言により、児童生徒理解や学級集団づくりの視点が共有され、学級経営の改善に向けた具体的な取組の参考となった。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観後の改善が継続的な実践につながるよう、フォローアップの機会を充実させる必要がある。 ・限られた回数での訪問では十分な支援が難しい場合もあるため、学校との連携を図りながら効果的な支援方法を検討する必要がある。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(3) 立志科の充実

〔ク〕 立志科推進事業補助金交付事業				
事業の	◆目的			

概要	<p>独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。</p> <p>◆事業費 650千円（財源 一般650千円）</p>									
実績	<p>◆事業概要</p> <p>(1) 補助対象となる事業内容</p> <p>自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動</p> <p>(2) 各学校の活動内容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">三戸小学校 (240千円)</td> <td style="text-align: center;">斗川小学校 (160千円)</td> </tr> <tr> <td>伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験</td> <td>畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">三戸中学校 (210千円)</td> </tr> <tr> <td>職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験</td> </tr> </table>				三戸小学校 (240千円)	斗川小学校 (160千円)	伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験	三戸中学校 (210千円)	職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験
三戸小学校 (240千円)	斗川小学校 (160千円)									
伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験									
三戸中学校 (210千円)										
職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験										
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立志科を通じて身につけさせたい10の能力（自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力）の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 									
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>						
	改善	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="checkbox"/>						

(4) 体育健康教育の充実

〔ケ〕 基本的な生活習慣（生活リズム）講演事業				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>基本的な生活習慣の重要性に関する講演会を実施し、児童生徒が生活習慣改善に取り組む機運を醸成する。</p> <p>◆事業費 0千円</p>			
実績	<p>◆概要</p> <p>(1) 小中一貫三戸学園三戸小学校1年生（33名）対象</p>			

	<p>日時：令和7年7月8日（火）3校時 場所：小中一貫三戸学園三戸小学校1年1組教室 演題：だいじだよ 早ね 早おき あさごはん 講師：教育委員会事務局 総括主幹 馬場幸治</p> <p>(2) 小中一貫三戸学園三戸小学校2年生（36名）対象 日時：令和7年7月8日（火）4校時 場所：小中一貫三戸学園三戸小学校2年1組教室 演題：だいじだよ 早ね 早おき あさごはん 講師：教育委員会事務局 総括主幹 馬場幸治</p> <p>(3) 小中一貫三戸学園三戸小学校6年生（47名）対象 日時：令和7年7月8日（火）4校時 場所：小中一貫三戸学園三戸小・中学校「学習センター」 演題：生活リズムを整えよう「早寝早起き朝ごはん」 講師：教育委員会事務局 総括主幹 馬場幸治</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活リズムを整える大切さを理解させるとともに、生活習慣改善に取り組む機運を醸成することができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域が一丸となって生活習慣改善に取り組む機運を醸成する必要がある。 			
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/>	拡充 縮小	

〔コ〕 栄養教諭による食の出前授業				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう学校における食育の一層の充実を図るため、栄養教諭による児童生徒への食に関する授業を実施する。</p> <p>◆事業費 0円</p>			
実績	<p>◆14回実施</p> <p>三戸小学校9回、斗川小学校2回、三戸中学校3回</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業実施後は給食を残さないで食べるようになったり、食の楽しさや食の大切さを理解している様子が感じられ、食に関する意識の向上が顕著に見られた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 食に関する正しい習慣や知識を習得させるには継続した活動が必要である。 食の出前授業内容を設定する際に、家庭や地域の生活スタイルや食環境の実態及び課題を明確にする必要がある。 			
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/>	拡充 縮小	

〔サ〕 フッ化物洗口事業				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>児童生徒のむし歯予防対策の一環として永久歯のう蝕を予防するため、学校単位で集団的・継続的にフッ化物洗口を実施する。</p> <p>◆事業費 365千円（財源 国庫 364千円・一般 1千円）</p>			

実績	◆事業概要 (1) 実施人数 (希望者) R8.3月時点 三戸小255人中244人・斗川小12人中12人・三戸中190人中166人 (2) 実施回数 (令和7年度は7月より開始) 三戸小24回・斗川小23回・三戸中26回 (3) 実施内容 各学校において、週1回、フッ化物 (ミラノール顆粒11%) が入った洗口液10mlを口に含み、30秒程度ブクブクうがいを行う。			
成果と課題	◆成果 家庭の生活環境等に関わらず、すべての児童生徒が平等にフッ化物の恩恵を受けることができ、健康格差の縮小につながるとともに、歯・口の健康についての意識の向上が図られ、健康教育にもつながり、子どもを通じて保護者等の意識の向上も期待される。 ◆課題 特になし			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(5) 生徒指導の充実

〔シ〕 生活習慣改善による不登校対策事業				
事業の概要	◆目的 中1ギャップを生じる予備軍である中等部の児童生徒や、睡眠不足が指摘されている高等部の生徒を対象に、生活習慣や睡眠実態等の調査をタブレット端末を利用したAIアプリによる評価を行い、生活リズムを見直す機会を提供する。 ◆事業費 74千円 (財源 一般74千円)			
実績	◆事業概要 (1) 調査期間 令和8年1月20日から2月2日までの連続する14日間 (2) 調査対象 町内全ての4年生～6年生の児童及び一部の7年生～9年生の生徒 計240名 (3) 調査方法 学校の1人1台端末からWebの「みんなくAIアプリ」にアクセスして睡眠時間等の情報を入力。 (4) 評価及びフィードバック AIアプリによる結果と評価コメントを児童生徒及び学校へフィードバック。 ※AI評価医師 三池輝久氏 (熊本大学名誉教授、日本眠育推進協議会理事長)			
成果と課題	◆成果 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活リズムを可視化することによる生活改善への意識づけや医学的見地からの助言による行動の変容につなげている。 ・記録をWeb上で行ったことにより、児童生徒はいつでも自分の端末から評価を確認することができる。 ・養護教諭と協働した取り組みをすることで、データ等を共有することができた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童生徒数は依然として増加傾向にあることから、生活改善に向け家庭からの協力を得るために、夏休みの教育相談や三者面談でフィードバックできるよう、調 			

	査時期を見直すなど、効果的な事業の展開が必要である。 ・不登校傾向にある児童生徒の入力が少なかったため、学校や家庭の協力を得ながら、現状を把握し、生活リズムの向上を促す工夫が必要である。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ス〕 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を三戸小中学校で実施、「ASSESS」を斗川小で実施し、活用を促すことにより児童生徒理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。 ◆事業費 599千円（うち三戸町分406千円）			
実績	◆ 1回目 5月「hyper-QU」 対象 三戸小中学校 2回目 10月「Q-U」 対象 三戸小中学校 1回目 5月「ASSESS」 対象 斗川小学校 2回目 10月「ASSESS」 対象 斗川小学校			
成果と課題	◆成果 ・「hyper-QU」により、学級満足度尺度や個人の学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル、学力とのクロス集計等の分析資料及び児童生徒用個人票が各学校へ提供され、児童生徒理解や学級経営の改善に活用された。 ・2回目の「Q-U」の結果との比較により、学級集団の変容を把握することができ、いじめや不登校の未然防止に向けた指導資料として活用された。 ・小規模校の実態に応じた取組として斗川小学校において「ASSESS」を実施し、児童の学校環境への適応状況や個々の変容を把握する資料として、児童理解や学級経営に活用された。 ◆課題 ・「hyper-QU」及び「Q-U」については、分析を業者へ依頼していることから、結果の送付までに1か月程度を要する。そのため、結果を効果的に活用する観点から、各校における実施時期をおおむね揃える必要がある。 ・「Q-U」や「ASSESS」の結果を用いた対応検討会については、個人情報への取扱いに十分配慮する必要があることから、学校単位で研修等を実施するなど、適切な運用を図ることが望ましい。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔セ〕 教育相談室運営（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 三戸地方に在住するおおむね18歳以下の児童・生徒の教育に関して、家庭や学校及びその他からの相談に応じて必要な助言指導を行い、不登校など課題解決の援助を図る。 ◆事業費 0千円			
実績	◆事業概要 (1)教育相談のべ件数 45件 実相談人数 9名（うち三戸町：小6名、中0名、高0名） (2)適応指導のべ件数 0件 実指導人数 0名（うち三戸町：小0名、中0名、高0名） (3)電話相談件数 62件（うち三戸町：小6名、中0名、高0名）			

成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三戸地方に在住する児童生徒の教育に関する相談に応じ、家庭からの相談に対して助言を行うことにより、課題解決に向けた支援を行うことができた。 ・不登校などの相談に対し、保護者の思いを受け止めながら助言を行い、学校と連携した支援につなげることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は5名であり、前年度より増加しているものの、相談室の役割や利用方法について、地域や保護者への周知をさらに図る必要がある。 ・相談内容が多様化していることから、学校や教育委員会、関係機関との連携を一層強化し、継続的かつ適切な支援体制を整える必要がある。 			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ソ〕 不登校等連絡会議（三戸地方教育研究所）													
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>不登校となっている児童生徒の事例について専門的知識を有する講師から対応の仕方などについて指導助言を受けることにより、児童生徒の指導の改善と不登校の解消を図る。また、小中学校の不登校児童生徒の情報を共有することにより小中学校が連携した指導の実現を図る。</p> <p>◆事業費 20千円</p>												
実績	<p>◆事業概要</p> <p>(1)会議：年間4回の開催</p> <p>①第1回目：各小中学校における不登校についての情報交換、スクールソーシャルワーカーによる不登校の現状とアプローチの仕方についての情報提供</p> <p>②第2回目～第4回目：各校の事例に応じた個別相談</p> <p>(2)対象：三戸地方の不登校児童生徒の指導にかかわる教職員</p> <p>(3)参加人数 1回目：5名 2回目：3名 3回目：4名 4回目：5名</p> <p>(4)講師：福井 淳悦 氏（三八教育事務所 スクールソーシャルワーカー） 葛西 励 氏（青森県総合学校教育センター教育相談課 指導主事） 高田 秀行 氏（青森県総合学校教育センター教育相談課 指導主事） 奈良岡洋平 氏（青森県総合学校教育センター教育相談課 指導主事）</p> <p>(5)不登校等連絡会議での相談件数・事例報告された件数（人数）</p> <table border="0"> <tr> <td>小学生</td> <td>5件（4名）</td> <td>（うち三戸町：4件（3名））</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>10件（7名）</td> <td>（うち三戸町：5件（5名））</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15件（11名）</td> <td>（うち三戸町：9件（8名））</td> </tr> </table>				小学生	5件（4名）	（うち三戸町：4件（3名））	中学生	10件（7名）	（うち三戸町：5件（5名））	合計	15件（11名）	（うち三戸町：9件（8名））
小学生	5件（4名）	（うち三戸町：4件（3名））											
中学生	10件（7名）	（うち三戸町：5件（5名））											
合計	15件（11名）	（うち三戸町：9件（8名））											
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回の会議では、スクールソーシャルワーカーを講師として招聘し、不登校の現状や児童生徒へのアプローチの在り方について情報提供を受けることにより、参加者の理解を深めることができた。 ・第2回から第4回までは個別相談会として実施し、県総合学校教育センター指導主事から、児童生徒や保護者への対応について具体的な助言を受けることができ、各校における指導の参考とすることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の要因が多様化していることから、児童生徒や保護者への対応について、より専門的な知見を取り入れながら、教職員の理解を深めていく必要がある。 ・会議で得られた助言や取組について、各校において校内で共有し、継続的な指導や支援 												

	につなげていく体制づくりが求められる。			
事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

(6) キャリア教育の推進

〔夕〕 立志科推進事業補助金交付事業（再掲・立志科の充実と関連）										
事業の 概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 650千円（財源 一般650千円）									
実 績	◆事業概要 (1) 補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 (2) 各学校の活動内容 <table border="1" data-bbox="357 925 978 1256"> <tr> <td>三戸小学校 (240千円)</td> <td>斗川小学校 (160千円)</td> </tr> <tr> <td>伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験</td> <td>畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="357 1296 654 1505"> <tr> <td>三戸中学校 (210千円)</td> </tr> <tr> <td>職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験</td> </tr> </table>				三戸小学校 (240千円)	斗川小学校 (160千円)	伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験	三戸中学校 (210千円)	職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験
三戸小学校 (240千円)	斗川小学校 (160千円)									
伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験									
三戸中学校 (210千円)										
職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験										
成果と 課題	◆成果 <ul style="list-style-type: none"> ・立志科を通じて身につけさせたい10の能力（自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力）の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 									
事業の 方向性	継続 改善	○	拡充 縮小							

(7) 特別支援教育の充実

〔チ〕 小中一貫教育チューター設置事業					
事業の概要	<p>◆目的 発達障害を含む教育上特別の支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な支援を行うため、小中一貫教育チューターを設置する。</p> <p>◆事業費 16,811千円（財源 一般16,811千円）</p>				
実績	<p>◆配置状況 三戸小・中学校5名</p>				
成果と課題	<p>◆成果 ・教育上特別な支援を要する児童生徒に対し、個に応じた学習活動上のサポートを行い、円滑な教育活動が展開できた。</p> <p>◆課題 ・特別な支援を要する児童生徒の数が増加傾向にある中、配置によるメリットを最大化できるように職分を明確化し、組織的な支援体制を構築することが必要。</p>				
事業の方向性	継続 改善	拡充 縮小	○	<p>特別な支援を要する児童生徒が増加傾向にあることから、次年度は、三戸小中7名、斗川小1名の配置ができるよう人材の確保に努めたい。</p>	

〔ツ〕 教育支援委員会（三戸地方教育研究所）																																													
事業の概要	<p>◆目的 三戸町および田子町の特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適切な教育相談・支援や就学後の一貫した支援を進めるとともに、特別支援教育の推進及び教育支援態勢の充実を図る。</p> <p>◆事業費 319千円（負担割合で按分 三戸町分… 220千円 69%）</p>																																												
実績	<p>◆(1)会議 事務説明会（1回）教育支援専門委員会（4回）教育支援委員会（4回） (2)審議状況（三戸町分）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">通常学級在籍</th> <th colspan="2">特別支援学級在籍</th> <th rowspan="2">令和8年度 新入学児童</th> </tr> <tr> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>審査対象者</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校判定者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>特別支援学級判定者</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>通級指導判定者</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>通常学級判定者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3)特別支援学級交流学習会 内容 ニュースポーツ体験・交流 講師 さんのへスポーツクラブ Enjoy 松原 栄子 氏、工藤 光弘 氏 参加者 36名（うち三戸町 19名（小学生16名 中学生3名））</p>						通常学級在籍		特別支援学級在籍		令和8年度 新入学児童	小学生	中学生	小学生	中学生	審査対象者	5	0	4	0	4	特別支援学校判定者	0	0	0	0	0	特別支援学級判定者	2	0	4	0	2	通級指導判定者	3	0	0	0	2	通常学級判定者	0	0	0	0	0
	通常学級在籍		特別支援学級在籍		令和8年度 新入学児童																																								
	小学生	中学生	小学生	中学生																																									
審査対象者	5	0	4	0	4																																								
特別支援学校判定者	0	0	0	0	0																																								
特別支援学級判定者	2	0	4	0	2																																								
通級指導判定者	3	0	0	0	2																																								
通常学級判定者	0	0	0	0	0																																								
成果と課題	<p>◆成果 ・教育支援委員会において、特別支援学校教員等の専門的な助言を得ながら慎重な審議を行い、児童生徒一人一人の実態に応じた適正就学について答申を行うことができた。また、就学後を見据えた有効と思われる支援方法についても協議することができた。</p> <p>・昨年度の課題であった通級指導教室における自立活動の指導内容について、教育支援委員会において情報共有及び意見交換を行う機会を設けることができた。</p> <p>・特別支援学級交流学習会では、ニュースポーツ体験を通して児童生徒同士の交流を深めるとともに、他校の児童生徒との関わりを通じて社会性の育成や学校間のつながりを広げる機会とすることができた。</p> <p>◆課題</p>																																												

	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症・情緒障害学級在籍の判定については、知能検査等の結果に明確な数値として表れない場合も多く、児童生徒の実態を総合的に捉えた慎重な判断が求められる。 ・新入学児童の適正就学の判定については、就学前の生活や発達の様子を踏まえた検討が重要であることから、幼稚園・認定こども園・保育所等との連携の在り方について検討する必要がある。 ・知能検査等を実施するための検査者の確保や体制整備が課題となっている。 			
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善		縮小	

〔テ〕 教育支援委員会学習会（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 個別の指導計画及び個別の支援計画の作成と活用方法について学習することにより、特別支援教育に対する理解を深め、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援の在り方を研修する。 ◆事業費 10千円			
実績	◆教育支援委員会学習会（自立活動の在り方、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成の仕方について） 講師 青森県総合学校教育センター 特別支援教育課 指導主事 木村 美佳子 氏 対象 郡内で今年度特別支援教育担当となった教職員（1年目～3年目）、希望者 参加者 11名（うち 三戸町5名）			
成果と課題	◆成果 ・講義や演習を通して、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成方法や合理的配慮の考え方、自立活動の目標設定の視点等について理解が深まり、児童生徒の実態に応じた支援を検討するための具体的な手掛かりを得ることができた。 ◆課題 ・自立活動の指導については、具体的な授業の進め方や実践事例をさらに知りたいとの意見も見られたことから、今後は実践に直結する具体的な指導事例や授業モデルの提示など、理解を一層深めるための研修内容の充実を図る必要がある。			
事業の方向性	継続		拡充	
	改善		縮小	<input type="radio"/>

（8）環境教育の推進

〔ト〕 立志科推進事業補助金交付事業（再掲・立志科の充実、キャリア教育の推進と関連）				
事業の概要	◆目的 独自の教科である「立志科」により心豊かでたくましい児童生徒を育むため、各学校が地域に根ざした教育活動を推進するための事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 650千円（財源 一般650千円）			
実績	◆事業概要 （1）補助対象となる事業内容 自然環境や環境問題に関する体験を取り入れた教育活動 自然体験や社会奉仕体験を取り入れた教育活動 郷土理解に関わる体験を取り入れた教育活動 勤労生産・職業体験を取り入れた教育活動 上記を取り入れて行う、幼児・高齢者・障害者・外国人等や他校種等との交流活動 （2）各学校の活動内容			

	<table border="1"> <tr> <td>三戸小学校 (240千円)</td> <td>斗川小学校 (160千円)</td> </tr> <tr> <td>伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験</td> <td>畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>三戸中学校 (210千円)</td> </tr> <tr> <td>職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験</td> </tr> </table>	三戸小学校 (240千円)	斗川小学校 (160千円)	伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験	三戸中学校 (210千円)	職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験		
三戸小学校 (240千円)	斗川小学校 (160千円)								
伝統食文化体験 伝統料理体験 昔の遊び体験 福祉体験 伝統芸能の伝承 英会話体験	畑作花き体験 斗内獅子舞伝承 国際理解体験 魚の飼育、観察 福祉体験								
三戸中学校 (210千円)									
職場体験 郷土理解体験 秋まつり体験									
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立志科を通じて身につけさせたい10の能力（自己を律する力、自己を啓発する力、他者を受容する力、仲間づくりをする力、集団生活で協力する力、規範を尊重する力、伝統文化や自然環境を理解する力、文化的活動を企画運営する力、社会的役割を遂行する力、将来設計をする力）の涵養につながった。 ・地域の方々とのふれあいを通じて、地域の学校支援意識の向上につながった。 ・地域に伝わる伝統・文化の継承の一助となっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>縮小</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>	改善	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="checkbox"/>
継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>						
改善	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="checkbox"/>						

(9) 国際化に対応する教育の推進

〔ナ〕 外国語指導助手（ALT）招致事業	
事業の概要	<p>◆目的 小中一貫教育英語科の充実及び国際理解教育の促進、並びに地域における国際交流の推進を図る。</p> <p>◆事業費 10,560千円（財源 一般10,314千円・公舎使用料246千円）</p>
実績	<p>◆概要</p> <p>(1) 人数 2名（JET-ALT1名、町雇用ALT1名）</p> <p>(2) 配置校 町内全小中学校3校（小学校2校、中学校1校）</p> <p>(3) 保育所等派遣 1施設、1回（学校長期休業中）</p> <p>(4) その他 中学生英語スピーチコンテスト指導協力、海外派遣研修事業英会話指導、町内保育所等での英語体験活動等</p>
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の英語に対する興味や関心、意欲が引き出され、特に小学校においては全ての英語科の授業で活用されており、その効果は非常に大きい。今年度は中学生海外研修派遣にも参加し、姉妹都市タムワースとの交流に貢献した。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTを最大限有効に活用できるよう、年度毎にALTの配置について学校及び本人

	と協議する。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ニ〕 英検受験料補助				
事業の 概要	<p>◆目的 令和5年度に作成したCAN-DOリストにおいて、英検の資格取得を具体的な目標としていることを踏まえ、最終学年である9年生に対して英検受験料の補助を行う。 ※CAN-DOリストにおける検定試験の目標 7・8年生：英検5級－英検4級、9年生：英検3級－英検準2級</p> <p>◆事業費 183千円（財源 一般183千円）</p>			
実 績	<p>◆概要</p> <p>(1) 事業対象者 三戸中学校9年生67名 (2) 補助対象者 5級5名、4級17名、3級18名、準2級3名、準2級プラス2名計45名 (3) 級取得者 5級5名、4級25名、3級12名、準2級1名、準2級プラス1名計44名</p>			
成果と 課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 9年生の英語力の到達度を計るとともに、9年間を通した英語教育の成果を測ることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> CAN-DOリストにおいて、英検の資格取得を中学生の具体的な目標としていることから、補助対象者の拡大を検討していく必要がある。 			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヌ〕 中学生海外派遣事業				
事業の 概要	<p>◆目的</p> <p>(1) 外国の生活習慣や文化に直接触れることによる視野の拡大と意識の向上 (2) ホームステイを通しての国際理解の推進と英会話学習 (3) 異文化交流による自国文化の理解</p> <p>◆事業費 5,773千円（財源 一般4,593千円・参加者負担1,180千円）</p>			
実 績	<p>◆概要</p> <p>実 施 日 令和7年10月27日（月）から11月1日（土）まで 実施場所 オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州タムワース・シドニー 参加人数 三戸中学校8学年10名 実施内容 1日目（10/27）出発・出国 2日目（10/28）入国・ホームステイ 3日目（10/29）交流会・授業体験・ホームステイ 4日目（10/30）タムワース視察・ホームステイ 5日目（10/31）シドニー視察・出国 6日目（11/1）帰国・帰着</p>			
成果と 課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外でのホームステイや授業を通じた交流によって、研修生たちは西洋的な文化や生活習慣について理解でき、また、視野の拡大にもつながった。 異なる言語の中において意思疎通をしようと努力した結果、コミュニケーション能力 			

	<p>の向上につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブの英語に直接触れたことで、発音の仕方や聞き取りの能力が養われた。 ・異文化体験により自国文化を再認識できた。 ・姉妹都市としての交流事業の側面もあり、今回の訪問で友好関係が深められた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タムワース高校の善意で、毎年、研修生のホームステイを実施できていたが、同校の負担も大きいことから、今後は隔年での実施を検討してほしいとのことであった。 ・タムワース高校で受け入れができない年は、他校を検討しなくてはならない。この場合、研修先はシドニー市内の学校を予定しているが、事業計画の都合から、できるだけ早期に受け入れが可能な学校を見つける必要がある。 ・世界的な物価上昇のあおりを受け、旅行費用が高騰を続けていることから、今後の研修先や研修内容について検討を要する。 ・渡航先の情勢によっては受入態勢が整わない場合もあるため、不測の事態に備えて、第二の研修計画案（概要）などを用意しておく必要がある。 ・派遣先（タムワース高校等）と学校（三戸）をオンラインでつなぎコミュニケーションをとる等、ICTを取り入れた交流についても今後検討する。 ・令和9年4月に、タムワース高校の生徒10名が来訪する予定となっている。このため、令和8年度中に、交流計画の立案と町内でのホームステイ受け入れ先の確保が必要である。 		
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小

（10）情報化に対応する教育の推進

〔ネ〕 ICT支援員設置事業	
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>小学校における情報教育を円滑に進めるため、小学校にコンピュータ技能者を配置することにより、専門性の発揮による情報教育の推進を図るとともに、教員の負担の軽減を図る。</p> <p>◆事業費 4,658千円（財源 一般 4,658千円）</p>
実績	<p>◆①配置期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日</p> <p>②配置学校 三戸小・中学校 1人</p> <p>③業務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級単位のパソコン学習における担任教員とのチームティーチング ・パソコンを活用した調べ学習等への随時、個別指導 ・パソコン機器・ソフトの保守管理 ・教員へのパソコン指導及びデータ作成等の校務支援 ・学校ホームページの作成
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのハード・ソフトの保守管理が常に万全であるため、クラス全員での授業においても機器・ソフトの不具合により授業に支障を来すことがなく、円滑な授業を行うことができた。 ・保守管理のための教職員の負担軽減が図られ、教員が授業準備や児童との関わりの時間を確保することができた。 ・学校が必要とするデータの集計等のフォーム等を作成することにより、事務処理の効率化に繋がった。 ・教職員が使用するパソコンの定期的なメンテナンス実施により、パソコンを使用する事務処理環境が常に良好に保たれている。

	◆課題 ・GIGAスクール構想に伴う1人1台端末の整備、高速通信可能なネットワーク環境の整備や学力テストのCBT化等により、年々求められる役割が大きくなっており、マンパワー不足が懸念される。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ノ〕 三戸地方未来塾補助事業				
事業の概要	◆目的 ICT教育の環境整備及び振興を図るため、三戸地方未来塾が行うICTクラブの運営や学校への出前授業、未来体験講座、ワークショップの開催などの各種事業に対し補助金を交付する。 ◆事業費 1,000千円(財源 一般1,000千円)			
実績	◆実施事業 1 ICTクラブの運営(学校のある水曜日に開催) (1) 日程: 令和7年6月11日～令和8年3月4日 小学生24回、中学生22回 (2) 対象: 町内小・中学生(4～9年生) 小学生22名、中学生11名 (3) 内容: キーボード入力、スクラッチを活用したプログラミングの実践など 2 出前授業①冬休み体験講座 (1) 日程: 令和8年1月7日・1月8日・1月9日の3日間 (2) 対象: 参加希望者のべ34名(7日: 11名、8日: 10名、9日: 13名) (3) 内容: スクラッチを活用したプログラミングの実践などの創作活動 2 出前授業② (1) 日程: 令和8年3月10日 (2) 対象: 小中一貫三戸学園斗川小学校2～5年生 11名 (3) 内容: マイクロビットを利用したじゃんけんゲームなど			
成果と課題	◆成果 ・プログラミング教育が必修化され、学校でプログラミング的思考を学習した子どもたちが、地域の中でも継続的に学べるICTクラブを運営することができた。 ・斗川小学校の全児童も出前授業としてプログラミングを体験することができた。 ◆課題 ・中学校段階での活用スキルが、本クラブに参加したか否かで大きく異なる状況にある。			
事業の方向性	継続 改善		拡充 縮小	○ 令和8年度は対象を4～6年に限定し、中学生は技術家庭科の授業の中で活用できるオンラインプログラミング教材を導入する予定。

〔ハ〕 GIGAスクールサポート業務				
事業の概要	◆目的 GIGAスクール構想による1人1台端末整備後の通信環境の良好な運用管理や保守点検を行うとともに、有効活用のための教職員への研修を行う。 ◆事業費 396千円(財源 一般396千円)			
実績	◆事業概要 GIGAスクールネットワーク環境の良好な運用管理のための支援 (1) 頻度: 2ヶ月に1回程度 (2) 対象: 町内全小中学校 (3) 内容: 年度更新設定、ネットワーク設定更新、フィルタリング設定等更新 (4) ネットワーク不具合時対応			

成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育のICT化に必要なネットワークやフィルタリングの設定の更新や、システムの運用支援により適切なICT環境の維持につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急速な教育現場のICT化が進行し、新たな知識が必要となる中、引き続き実際に活用する教職員の育成が必要となる。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

(11) 安全・安心な学校環境づくりの推進

〔ヒ〕 学校施設・設備整備																								
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するために、施設・設備の整備及び適切な維持管理を行う。</p> <p>◆事業費 4,844千円（財源 一般4,844千円）</p>																							
実績	<p>◆主な工事・修繕</p> <table border="0"> <tr> <td>①三戸小中学校留守番電話設置工事</td> <td>163,680円</td> </tr> <tr> <td>②三戸小中学校なかよし教室空調設置工事</td> <td>803,000円</td> </tr> <tr> <td>③三戸小中学校多目的ホール前廊下床修繕</td> <td>561,000円</td> </tr> <tr> <td>④三戸小中学校給食搬入口前廊下床修繕</td> <td>495,000円</td> </tr> <tr> <td>⑤三戸小中学校宮太鼓修繕</td> <td>220,000円</td> </tr> <tr> <td>⑥三戸小中学校高圧受電設備交換修繕</td> <td>550,000円</td> </tr> <tr> <td>⑦斗川小学校深夜電力変圧器交換修繕</td> <td>352,000円</td> </tr> <tr> <td>⑧三戸小中学校楽器修繕</td> <td>281,050円</td> </tr> <tr> <td>⑨三戸小中学校グラウンド整備工事</td> <td>643,500円</td> </tr> <tr> <td>⑩三戸小中学校ベンチ修繕</td> <td>187,000円</td> </tr> </table>				①三戸小中学校留守番電話設置工事	163,680円	②三戸小中学校なかよし教室空調設置工事	803,000円	③三戸小中学校多目的ホール前廊下床修繕	561,000円	④三戸小中学校給食搬入口前廊下床修繕	495,000円	⑤三戸小中学校宮太鼓修繕	220,000円	⑥三戸小中学校高圧受電設備交換修繕	550,000円	⑦斗川小学校深夜電力変圧器交換修繕	352,000円	⑧三戸小中学校楽器修繕	281,050円	⑨三戸小中学校グラウンド整備工事	643,500円	⑩三戸小中学校ベンチ修繕	187,000円
①三戸小中学校留守番電話設置工事	163,680円																							
②三戸小中学校なかよし教室空調設置工事	803,000円																							
③三戸小中学校多目的ホール前廊下床修繕	561,000円																							
④三戸小中学校給食搬入口前廊下床修繕	495,000円																							
⑤三戸小中学校宮太鼓修繕	220,000円																							
⑥三戸小中学校高圧受電設備交換修繕	550,000円																							
⑦斗川小学校深夜電力変圧器交換修繕	352,000円																							
⑧三戸小中学校楽器修繕	281,050円																							
⑨三戸小中学校グラウンド整備工事	643,500円																							
⑩三戸小中学校ベンチ修繕	187,000円																							
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度、学校から出された施設整備の要望書に基づき、整備の計画をしたものについては計画通りに、また学校施設設備点検の結果を踏まえて修繕、対応を要するものについては随時整備を行った。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側からの要望事項は多岐にわたるが、緊急度に応じた計画的な予算計上に努め、修繕及び整備を進めていく必要がある。 ・施設が老朽化しており、将来的に大規模な修繕を実施する必要がある。このため、国庫補助等を活用した修繕計画の策定を進める。 																							
事業の方向性	継続	○	拡充																					
	改善		縮小																					

〔フ〕 日本スポーツ振興センター災害共済給付事業				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>学校の管理下における児童生徒の災害（負傷、疾病、障害又は死亡）に係る医療費について、保護者に対し災害共済金の給付を行い保護者負担を軽減することにより、学校教育活動を円滑に実施することを目的とする。</p> <p>◆事業費 358千円（財源 一般220千円・その他138千円）</p>			
実績	◆共済加入児童生徒数			

	小学生 223名 中学生 165名 合計 388名								
	◆共済掛金 一般児童生徒 935円（町負担額535円、保護者負担額400円） 準要保護児童生徒 935円（町負担額935円） 要保護児童生徒 55円（町負担額47円、国庫補助8円）								
	◆発生件数・給付金 小学校 発生件数 7件（給付件数 7件） 28,968円 中学校 発生件数 25件（給付件数 58件） 284,851円								
成果と課題	◆成果 ・児童生徒の負傷等に係る医療費支払い分の他、見舞金として1割加算分が給付されるため、保護者の医療費負担軽減につながっている。 ◆課題 ・町で実施している子ども医療費助成制度に優先して適用する制度のため、一旦は窓口負担を保護者に強いることになっている。 ・以前は児童生徒のほとんどが加入していたが、子ども医療費助成制度の普及により加入しない児童生徒も増えてきている。								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td>○</td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	○	拡充		改善		縮小	
継続	○	拡充							
改善		縮小							

〔へ〕 児童生徒緊急搬送タクシー運行事業									
事業の概要	<p>◆目的 児童生徒の学校管理下内における事故への迅速な対応のため、各学校から病院まで怪我をした児童生徒の搬送を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>運行条件</td> <td> ①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断 </td> </tr> </table> <p>◆事業費 60千円（一般財源60千円）</p>	運行条件	①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断						
運行条件	①生命の危険が伴う場合は救急車対応 ②学校、病院までの往復対象（教職員引率） ③原則町内各病院、状況によっては町外の病院も可 ④タクシーの利用は、養護教諭から報告を受けた学校長の判断								
実績	<p>◆事故時における児童生徒の病院へのタクシーによる搬送回数 運行回数 1回 利用額 2,780円</p>								
成果と課題	<p>◆成果 ・学校管理下内における生命の危険を伴わない事故について、児童生徒の病院への搬送をタクシーにより行っている。平成17年度以前は、教員の自家用車を使用しており、交通事故等への対応について問題があった。同事業の実施により児童生徒の事故対応が迅速かつ適正に行われることとなる。</p>								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td>○</td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	○	拡充		改善		縮小	
継続	○	拡充							
改善		縮小							

（12）教員研修の充実

〔ホ〕 授業実践支援事業（三戸地方教育研究所）（再掲・授業の充実と関連）	
事業の概要	<p>◆目的 授業参観、協議及び助言を通し、学級経営や授業実践に関する支援を行うことにより、三戸町及び田子町の教育活動に資する。</p> <p>◆事業費 19千円（うち三戸町分 14千円）</p>
実績	◆実施校 2校（うち三戸町1校）

	<ul style="list-style-type: none"> 三戸学園 4 学年算数 (3 回) 4 学年体育 (1 回) 7 学年体育 (2 回) 9 学年体育 (1 回) 田子小学校 3 学年算数 (2 回) 指導助言者 (3 名) 大島 朋幸 主任指導主事 (三八教育事務所) 林 可人 指導主事兼社会教育指導主事 (三八教育事務所) 対馬 康弘 教頭 (五戸町立倉石中学校) 								
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観や協議を通して、教員が自らの授業を客観的に振り返る機会となり、授業改善への意識の向上につながった。 助言により、児童生徒理解や学級集団づくりの視点が共有され、学級経営の改善に向けた具体的な取組の参考となった。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観後の改善が継続的な実践につながるよう、フォローアップの機会を充実させる必要がある。 限られた回数での訪問では十分な支援が難しい場合もあるため、学校との連携を図りながら効果的な支援方法を検討する必要がある。 								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充		改善		縮小	
継続	<input type="radio"/>	拡充							
改善		縮小							

〔マ〕 教育相談研修講座 (三戸地方教育研究所)			
事業の概要	◆目的	教育の専門家である教師が、法律の専門家から法的な視点に基づいた指導助言を仰ぐことで二町の教員の指導力に資する。	
	◆事業費	0 円	
実績	◆教育相談研修講座 (スクールロイヤーと学校等の円滑な連携)	講師 青森県スクールロイヤー弁護士 上野 大輔 氏 (三八地区担当) 対象 二町小中教職員、二町教育委員会職員 参加者 9 名 (うち三戸町 5 名)	
成果と課題	◆成果	・学校現場における具体的な事例を基に、教員の視点とスクールロイヤーの法的視点の双方から学校対応の在り方について理解を深めることができた。また、教員の安全配慮義務や指導上の留意点、スクールロイヤーの役割等について認識が深まり、学校が適切に説明責任を果たしながら対応することの重要性について理解を深める機会となった。	
	◆課題	・2 年連続でスクールロイヤーを招聘して実施した研修であったが、今年度は参加人数が少なかったことから、より多くの教職員が研修の成果を共有できるよう、研修の周知方法や開催方法等について工夫を図る必要がある。	
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	教育相談を取り巻く課題は多様化していることから、次年度においては、教育相談に関する別の視点や内容を取り入れた研修を企画し、教職員の実践的な対応力の一層の向上を図っていく。
	改善		
		拡充	
		縮小	

〔ミ〕 学級経営研修講座 (三戸地方教育研究所)			
事業の概要	◆目的	三戸地方の小中学校の教職員の学級経営力と授業力向上のための研修を通して、教職員の資質向上に資する。	

	◆事業費 25千円			
実績	◆学級経営研修講座（特別支援教育の視点をいかしたこどもへの関わり方と環境づくり） 講師 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 教授 野口 和也 氏 対象 二町小中学校教職員、二町教育委員会職員、二町幼稚園、保育園、学童関係者 参加者31名（うち三戸町21名）			
成果と課題	◆成果 ・脳の働きや発達の見点から児童生徒の行動や学びを捉える講義を通して、子どもの困り感の背景を理解することの重要性について認識を深めることができた。また、称賛や承認、心理的安全性の確保など、子どもの意欲や主体的な学びを支える関わり方について理解が深まった。 ◆課題 ・脳の働きや発達の見点から子どもへの理解を深める内容であり、参加者の関心も高かったことから、今後はこうした知見を教育相談や日常の指導場面に生かしていくため、継続的な研修を通して理解の深化を図っていく必要がある。			
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善		縮小	

〔ム〕 教職員資質向上研修講座（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 社会人としての接遇マナー及び一般企業の視点に基づいた人材育成についての知識や技能を学ぶことで、三戸地方教職員の資質向上や児童生徒一人一人のキャリア形成に資する。 ◆事業費 56千円			
実績	◆教職員資質向上研修講座（社会人としての接遇マナーや学校と企業で共通する「人材育成」の観点からキャリア教育を学ぶ） 講師 オフィス円香 代表 大坂 彰子 氏 対象 二町小中学校教職員、二町教育委員会職員、二町幼稚園、保育園、学童関係者 参加者20名（うち三戸町17名）			
成果と課題	◆成果 ・キャリア教育の意義や社会で求められる人材像について理解を深めるとともに、電話応対や敬語の使い方、来客対応、名刺交換などの接遇マナーについて実践的に学ぶことができた。 ・学校教育と社会との視点の違いを踏まえ、児童生徒の将来を見据えた指導の重要性を再認識するとともに、教職員自身の社会人としての基本的な姿勢や接遇の在り方を見直す契機となるなど、教職員としての資質向上につながる研修であった。 ◆課題 ・本研修で学んだ接遇マナーやキャリア教育の視点を一過性の学びにとどめることなく、日常の教育活動や学校運営の場面において継続的に実践していくことが重要である。そのため、今後は学校現場での具体的な実践や指導場面と関連付けながら研修内容の充実を図り、教職員の実践力の向上と児童生徒への指導の充実につなげていく必要がある。			
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善	<input type="radio"/>	縮小	
本研修は教職員の資質向上に資する内容として一定の成果を得ることができたが、今後は学校現場のニーズを踏まえた見直しが必要である。このことから、次年度は本研修を休講とし、内容の整理や実施方法の検討を行うとともに、今後は隔年実施とするなど、学校現場のニーズに応じた弾力的な研修の在り方について検討していく。				

〔メ〕 校内研修講師等派遣事業（三戸地方教育研究所）				
事業の概要	◆目的 二町各校の校内研修等の外部講師への謝金を補助し、教育活動の充実に資する。 ◆事業費 20千円（三戸町分）			
実績	◆特別な支援を必要とする子の見とり方 講師 青森県発達障がい者支援センターDoors センター長 分枝 篤史 氏			
成果と課題	◆成果 ・外部講師を招聘した校内研修を実施することができ、専門的な知見や最新の教育実践を学ぶ機会を確保することができた。 ◆課題 ・二町の各校において活用が図られるよう、来年度においても引き続き周知の徹底に努めていく。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

（13）複式教育の充実

〔モ〕 学級経営のための調査（Q-U、ASSESS）（三戸地方教育研究所）（再掲・生徒指導の充実と関連）				
事業の概要	◆目的 学級の状態を把握するための調査「hyper-QU」・「Q-U」を三戸小中学校で実施、「ASSESS」を斗川小で実施し、活用を促すことにより児童理解に基づいた生徒指導、より良い学級経営の実現に資する。 ◆事業費 599千円（うち三戸町分406千円）			
実績	◆ 1回目 5月「hyper-QU」 対象 三戸小中学校 2回目10月「Q-U」 対象 三戸小中学校 1回目 5月「ASSESS」 対象 斗川小学校 2回目10月「ASSESS」 対象 斗川小学校			
成果と課題	◆成果 ・「hyper-QU」により、学級満足度尺度や個人の学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル、学力とのクロス集計等の分析資料及び児童生徒用個人票が各学校へ提供され、児童生徒理解や学級経営の改善に活用された。 ・2回目の「Q-U」の結果との比較により、学級集団の変容を把握することができ、いじめや不登校の未然防止に向けた指導資料として活用された。 ・小規模校の実態に応じた取組として斗川小学校において「ASSESS」を実施し、児童の学校環境への適応状況や個々の変容を把握する資料として、児童理解や学級経営に活用された。 ◆課題 ・「hyper-QU」及び「Q-U」については、分析を業者へ依頼していることから、結果の送付までに1か月程度を要する。そのため、結果を効果的に活用する観点から、各校における実施時期をおおむね揃える必要がある。 ・「Q-U」や「ASSESS」の結果を用いた対応検討会については、個人情報の取扱いに十分配慮する必要があることから、学校単位で研修等を実施するなど、適切な運用を図ることが望ましい。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

3. 社会教育指導の重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

〔ア〕 さんのへ農業小学校支援事業			
事業の概要	<p>◆目的 子どもたちに農業体験を通して、働くこと、協力し合うことの大切さを教えたり、たくましい精神力・創造力を身につけさせたりするため、三戸食農推進協議会が行う農業小学校運営事業の運営を支援する。</p> <p>◆事業費 420千円（財源 一般420千円）</p>		
実績	<p>◆さんのへ農業小学校事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日数 12回（月1回程度の土曜日の午前中に実施） ・登録児童 24名（三戸小=15名、名川小=4名、南部小=4名、福地小=1名） ・事業内容 作業8回、座学1回、販売体験1回 遠足1回、もちつき1回、式典1回 		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、多品種にわたる作物の植付、管理、収穫、販売、加工体験等を行い、充実した体験活動を行うことができた。 ・班編制による異年齢間の交流やグループ作業によりリーダーシップや積極性、協調性や思いやりの心を育むことができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農繁期と時期が重なるため農家先生の出席率が非常に低い。 ・植付けや収穫の時期など、近年の気象状況に合わせた調整が必要である。 		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 縮小	近隣市町村へ周知を図り、参加者を募っていく。

〔イ〕 三戸町子ども会育成連絡協議会支援事業			
事業の概要	<p>◆目的 子ども会育成連絡協議会の事業を支援し、子どもの健全育成を推進する。</p> <p>◆事業費 310千円（財源 一般310千円）</p>		
実績	<p>◆子ども会大会</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 開催日 令和8年2月15日（日） (2) 場所 三戸町民体育館 (3) 参加人数 17人 (4) 内容 モルック、ボッチャ、バッコー 		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツは幅広い年齢層で楽しむことができ、年齢によるハンディが少なく未就学児から大人まで交流することができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着きわくわくキャンプを計画したが、参加者数が少なく実施することができなかった。内容を見直し、子どもたちが参加しやすい内容へ変えていく必要がある。 		
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/> 拡充 <input type="radio"/> 縮小	イベント開催へ向けて関係各所との連携強化と開催方法の見直しを行うことが必要。

〔ウ〕 伝統芸能保存継承事業			
事業の概要	<p>◆目的 伝統文化の保存継承のため、活動の記録作成や後継者の育成支援、発表機会の充実に努める。</p> <p>◆事業費 0千円</p>		
実績	<p>◆伝統行事での各団体の活動支援及び記録作成</p> <p>①「泉山七歳児初参り」 実施日：令和7年7月25日（金） 参加した七歳児：7名</p> <p>②「三戸秋まつり」（斗内獅子舞） 実施日：令和7年9月26日（金）お通り 〃 28日（日）お環り</p> <p>◆継承活動（学校授業等）への支援 三戸小学校5学年を対象に「三戸の伝統文化（祭り）」の出前授業を実施 実施日：9月8日</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動支援により、後継者育成の一助になっている。 ・各種団体の活動記録をまとめることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体の活動で最も重要なことは後継者の育成であり、このことが保存と継承を大きく左右する。しかし、近年の大幅な人口流出等により、どの団体も後継者の確保が困難となっている。 ・団体の発表機会を拡充していく必要がある。 ・「遠藤のえんぶり」と「貝守のもちつき唄」の保存が困難となっていることから、最低限の保存として、動作や囃子の映像記録を編集する必要がある。 		
事業の方向性	継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/>	拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/>	保存と継承を推進するには、各種団体の発表の機会を充実させることが最も重要であり、関係機関に働きかけをしていく必要がある。

〔エ〕 ふれあい活動事業			
事業の概要	<p>◆目的 子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。</p> <p>◆事業費 0千円（財源 一般0千円）</p>		
実績	<p>◆年3回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。</p> <p>第1回活動：令和7年 6月 1日（日） 第2回活動：令和7年 8月 3日（日） 第3回活動：令和7年10月 5日（日）</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの参加が少ないので、各町内会の会長や子ども会の会長への呼びかけや学校からの周知を依頼する等、参加の促進を図る。 		
事業の方向性	継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/>	拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/>	

〔オ〕 放課後子ども教室推進補助事業				
事業の概要	<p>◆目的 子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域の子育て機能・教育力の低下が指摘されるなか、地域住民の協力を得て、放課後に子どもたちが安全で安心して活動できる居場所づくりを推進することを目的として実施する放課後子ども教室の運営に必要な補助金を交付する。</p> <p>◆事業費 972千円（財源 国225千円、県225千円、一般522千円）</p>			
実績	<p>◆三戸小なかよし教室運営</p> <p>(1)登録児童数14人、協働活動リーダー8人、コーディネーター1人 (2)参加児童数 延べ 861人 (3)運営日数 年間107日（月・水・金） (4)活動内容 英語あそび、運動プログラム、囲碁教室、体験活動 他 (5)活動場所 三戸小中学校2学年多目的室</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、城山公園探検や三味線体験など、地域の歴史や伝統文化に触れる機会を新たに設けることができた。 ・定期的な実行委員会を行い、指導員間で子どもたちに対する指導や運営等に関する共通理解を図り、安全に子どもたちを見守ることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央児童クラブとの一体型のプログラムや、斗川児童クラブとの交流会など、関係機関との共同事業の実施や、更なる連携の強化を推進していく。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔カ〕 青少年健全育成三戸町民会議運営事業				
事業の概要	<p>◆目的 青少年が健康で人間性豊かに成長することを願い、青少年健全育成町民会議を設置し町内各関係機関との連携のもと、青少年の健全育成を推進する。</p> <p>◆事業費 35千円（財源 一般35千円）</p>			
実績	<p>◆朝のあいさつ運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実 施 日 令和8年7月14日～18日 令和8年8月25日～8月29日 ・実 施 場 所 各学校正門前、通学路等 <p>◆総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年11月6日（木） <p>◆青少年健全育成三戸町民大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年12月8日（日） 講師：青森明の星短期大学 副学長 最上 和幸 氏 テーマ「現在の子どもの置かれている現状と地域の支援の重要性」 <p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝から青森県青少年健全育成推進員及び関連団体、地域住民にも参加いただき、学校正門前や通学路等で生徒・児童とあいさつを交わすことで、あいさつの重要性を広めることできた。 ・三戸町民全員を対象に、青森明の星短期大学 副学長 最上 和幸 氏を講師に招き、町民大会を開催した。 			

	◆課題 ・特になし			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔キ〕 三戸町少年指導センター運営事業				
事業の 概要	◆目的 少年指導機関、団体及び民間有志が少年の非行防止に必要な業務を効果的に行うため、 合同活動の拠点として三戸町少年指導センターを設置し非行防止活動を行う。 ◆事業費 242千円（財源 一般242千円）			
実 績	◆三戸町少年指導センター (1) 一斉巡回活動 3回（春季、夏季、秋まつり）：延べ人数 33名 (2) 随時巡回活動 通年 (3) 少年指導委員 24名 ◆主な事業費 委員報酬 66,000円（巡回指導手当報酬のべ33人×2,000円）			
成果と 課題	◆成果 ・春まつりおよび、夏休み期間の夜間巡回を行った。人目につかない場所を中心に一斉 巡回した。特に非行等は確認されていない。 ◆課題 ・毎年、非行等の問題行動も特に確認されていないことから縮小も検討するのがいいと 考えられる。			
事業の 方向性	継続		拡充	県組織の解散に伴い、令和7年度をもって事業廃止
	改善		縮小	○

〔ク〕 家庭教育学級開催事業				
事業の 概要	◆目的 参観日等、多くの親が集まる様々な機会において、家庭教育に関する学習機会を提供 し、家庭の教育力の向上を図ることを目的とする。 ◆事業費 5千円（財源 一般5千円）			
実 績	◆実施なし 内 容 食育学習 今こそ学びたい 初女さんの「おむすび」 派遣講師 いとう由香 参加人数 9名			
成果と 課題	◆成果 ・佐藤初女先生の活動について講演していただき、一緒におにぎりを握って試食した 食の大切を学んだ ◆課題 ・今後多くの団体に事業を活用してもらえよう周知方法等を考えたり事業内容を見直 す必要がある。			
事業の 方向性	継続	○	拡充	
	改善	○	縮小	

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成

〔ケ〕 二十歳を祝う会開催事業				
事業の概要	<p>◆目的 若者たちの門出を祝い励ますと共に、社会を担っていく主体としての自覚を促す。</p> <p>◆事業費 270円（財源 一般270千円）</p>			
実績	<p>◆令和8年三戸町二十歳を祝う会実行委員会 開催日 令和7年10月22日（水） 場 所 三戸町中央公民館 参加者2人</p> <p>◆令和8年三戸町二十歳を祝う会 ・令和8年1月11日（日） 対象者77人</p> <p>◆記念品 ・集合写真</p>			
成果と課題	<p>◆成果 ・対象者による実行委員会を組織し、企画・運営させることで、主体的に二十歳を祝う会に進んで社会参加しようとする意識の高揚を図ることができた。</p> <p>・式典、セレモニーなどにおいて、対象者へ役割を持たせ、二十歳としての自覚を持たせることができた。</p> <p>◆課題 ・今後、対象者の人数も減っていくので、式典やセレモニーの内容など検討していく必要がある。</p>			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔コ〕 三戸町人材活用講師派遣事業				
事業の概要	<p>◆目的 町内小中学校での授業等教育活動の円滑な運営に資するため、地域において各種技能や知識、経験を有する町民を講師として学校に派遣するものである。</p> <p>◆事業費 15千円（財源 一般15千円）</p>			
実績	◆なし			
成果と課題	<p>◆成果 なし</p> <p>◆課題 ・活用団体が少ないため、呼びかけや周知を行う。</p>			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔サ〕 ふれあい活動事業（再掲） (学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成と関連)				
事業の概要	<p>◆目的 子どもからお年寄りまで、早朝にあいさつをかわし、ふれあいながら、ごみ拾い、草取りや落ち葉拾いなど清掃・環境美化活動を行うことにより、各人が、自分の住んでいる地域を愛する心を育てるとともに、きれいで快適な町づくりに資するため実施するものである。</p> <p>◆事業費 0千円（財源 一般0千円）</p>			
実績	◆年3回、花植え、ゴミ拾い、河川敷清掃、草刈り等の環境美化活動を実施。 第1回活動：令和7年 6月 1日（日）			

	第2回活動：令和7年 8月 3日（日） 第3回活動：令和7年10月 5日（日）			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動は定着しており、地域コミュニティ強化の一助となっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの参加が少ないので、各町内会の会長や子ども会の会長への呼びかけや学校からの周知を依頼する等、参加の促進を図る。 			
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善		縮小	

（3）一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

〔シ〕 三戸オープンキャンパス（旧：公民館講座）				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>町民の学習ニーズに応じて、自発的な学習意欲を高め、自らに適した手段・方法で受講できるさまざまな学習機会を提供することにより、生涯学習の推進を図る。</p> <p>◆事業費 748千円（財源 一般748千円）</p>			
実績	<p>(1) 講座数 長期：13講座（新規講座4） 短期：3講座</p> <p>(2) 講座内容 長期 ①野菜教室 ②オカリナ教室 ③はじめてのフラダンス教室 ④ルーシーダットン ⑤からだの学校 ⑥韓国美容体験 ⑦健康麻雀教室 ⑧大人の塗り絵 ⑩気軽に学べる歴史セミナー ※予定していた講師の居住地が被災 ことにより中止</p> <p>(3) 受講者数 125名（延べ343名）し</p> <p>(4) 講師謝金 563,600円（13講師 49回 一回あたり6,000円～9,000円）</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から町民の希望に添った講座を開講することができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い年代層の参加者にも参加してもらうため、開催曜日、時間等を考える必要がある。 			
事業の方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	
	改善		縮小	

〔ス〕 公民館分館講座委託事業				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>各分館が地域性を生かしながら、住民の健康増進、教養の向上、伝統文化の継承、世代間交流等を通して地域住民の親和を図り、もって豊かな地域づくり、まちづくりに寄与する。</p> <p>◆事業費 540千円（財源 一般540千円）</p>			
実績	<p>◆ (1) 分館数 6分館（泉山、梅内、目時、貝守、蛇沼、大舌） ※豊川、袴田、杉沢、斗内は中止。 ※下田は活動休止中。</p> <p>(2) 講座数 22講座（全分館分）</p> <p>(3) 主な講座内容 健康教室、教養講座、料理教室、写真教室</p> <p>(4) 参加者数 412名（延べ412人数）</p> <p>(5) 講座委託料 1分館 50千円</p> <p>(6) 分館職員報酬 分館長30千円 主事12千円 書記12千円</p> <p>(7) 分館講座一覧</p>			

分館名	講座名	講座内容
泉山	りんご剪定講座	剪定技術の習得
	健康教室	体操の習得
	神楽伝承講座	伝統芸能の習得
	伝承講座	御礼歌の習得
梅内	教養講座	エジプト展を見学しよう 縄文の歴史に触れよう
	料理教室	フレイル予防食を学ぼう
	健康教室	フレイルを予防しよう 認知症を予防しよう
	料理教室フレイル	干支カレンダーを作ろう
貝守	軽スポーツ講座	モルック
	カードゲームZORING	カードゲームで梅林について学んでいく
	健康教室	農作業に向けて体幹を鍛える
蛇沼	写真教室	景色を楽しむ
	登山教室	体を動かす
	登山教室	登山を楽しむ
大舌	環境整備	草刈り、花植え等
	料理教室	そば作り
	手芸教室	カゴ作り
	料理教室	くしもち作り
目時	親子レク	ニュースポーツ・花火
	三世代交流会	室内スポーツ・もちつき
	健康教室	料理・ストレッチ体操
	教養教室	婦人研修
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分館の自主的な企画によりそれぞれの地域の特性を活かした講座を開催することができている。 ・一人暮らしの高齢者などの交流の場ともなっており、地域の活性化につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分館職員の確保や参加者の減少等が課題となっており、活動休止中の分館もあるため、今後も継続していけるよう活動方法を考えなければならない。 	
事業の方向性	継続 <input type="radio"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="radio"/> 縮小 <input type="checkbox"/>	

〔セ〕 高齢者学級寿教室	
事業の概要	<p>◆目的 高齢者が心身ともに健康で生きがいある生活を送ることができるよう高齢者の生活課題に関連した学習機会や喜びや楽しさを感じられる機会を提供する。</p> <p>◆事業費 480千円（財源 一般480千円）</p>
実績	<p>◆実施概要</p> <p>(1) 学級生数 65名（男性10名・女性55名）</p> <p>(2) 最高齢者 94歳 平均年齢81歳</p> <p>(3) 学習会の実施状況</p>

	①第53回開級式 ②「警察安全講話」 ③「11ぴきのねこ石像巡り（バス研修）」 ④「健康運動学習会（熱中症対策）」 ⑤「グラウンドゴルフ交流大会」 ⑥「青森県知事対話集会＃あおばな」 ⑦「原子燃料サイクル施設見学会（バス研修）」 ⑧「エンディングノートの書き方講座」 ⑨「三戸町議会傍聴」 ⑩「調理実習」 ⑪「沼沢町長とお話会」 ⑫第53回開級式 (4) クラブ活動の実施 書道クラブ、グラウンドゴルフクラブ	令和7年 4月21日（月） 38名 令和7年 5月19日（月） 30名 令和7年 6月16日（月） 29名 令和7年 7月22日（火） 24名 令和7年 8月25日（月） 26名 令和7年 9月22日（月） 10名 令和7年10月20日（月） 26名 令和7年11月17日（月） 28名 令和7年12月 4日（木） 16名 令和7年12月 5日（金） 6名 令和8年 1月26日（月） 23名 令和8年 2月18日（月） 20名 令和8年 3月23日（月） 00名								
成果と課題	◆成果 ・高齢者が集う機会を提供することにより、交流が生れ、様々な生涯学習への参加が促されている。 ・仲間とふれあい、楽しみながら学習会に参加することができ、高齢者の生きがいつくりの場となっている。									
事業の方向性	◆課題 ・講座内容について、学級生の希望を取り入れて楽しんでもらえるようなものを考える必要がある。									
	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td></td> <td>縮小</td> <td></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充		改善		縮小		
継続	<input type="radio"/>	拡充								
改善		縮小								

〔ソ〕 三戸キッズチャレンジ（旧：子ども公民館講座）	
事業の概要	◆目的 普段、公民館を利用することが少ない子どもたちに、夏休みや冬休みなどを利用し、ものづくり体験をとおして、仲間とのふれあいや交流を深めることにより、健全な子どもの育成の一助とする。 ◆事業費 50千円（一般財源50千円）
実績	◆第1回 ペーパークラフト教室 ・令和7年11月29日（土） (1) 開催場所 三戸町中央公民館 第1会議室 (2) 参加者 15名 (3) 内 容 子どもが好きなキャラクター（鬼滅の刃）を選んで作成 ◆第2回 弁当の日 ・令和7年12月13日（土） (1) 開催場所 アップルドーム 調理室 (2) 参加者 15名 (3) 内 容 各自弁当箱を準備し、子どもだけで弁当を作った
成果と課題	◆成果 ・学校では普段できない体験学習の機会を子ども達に与えることができた。 ◆課題

	・時代や子ども達のニーズに沿った活動をしていきたい。		
事業の方向性	継続 <input type="radio"/>	拡充 <input type="checkbox"/>	子どもたちの興味のある分野に沿った講座を開催する。
	改善 <input type="checkbox"/>	縮小 <input type="checkbox"/>	

〔タ〕 公民館まつり開催事業			
事業の概要	<p>◆目的 公民館を学習拠点とした生涯学習活動団体に、発表の場を提供し、その成果を広く町民に紹介する機会を設けることにより、生涯学習の推進を図ることを目的とする。</p> <p>◆事業費 0円</p>		
実績	<p>◆作品展示</p> <p>(1) 期間 令和7年11月1日～3日 (三戸町総合文化祭、子ども文化作品展と併催)</p> <p>(2) 来場者数 延べ782人(3日間合計)</p> <p>(3) 出品数 ・公民館講座サークル作品、Nゲージ トールペイント、書道、絵手紙サークル川の驛、鉛筆画 梅内分館</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座で制作した作品の展示の場を提供することができた。 ・三戸町総合文化祭、子ども文化作品展と併催したことで、多くの町民に活動の成果を見せることができた。 ・体験ブースを設置し、子どもから高齢者まで楽しむ場を提供することができた。 (鉛筆画教室) <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体が減少しているため、多くの人に参加してもらえるような取組みを考える必要がある。 		
事業の方向性	継続 <input type="checkbox"/>	拡充 <input type="checkbox"/>	
	改善 <input type="radio"/>	縮小 <input type="checkbox"/>	

(4) 社会教育推進のための基盤整備

〔チ〕 三戸町中央公民館管理運営			
事業の概要	<p>◆目的 生涯学習の中核的施設として、町民のために実生活に即した各種の事業を実施し、町民の教養の向上及び健康増進並びに住民相互の交流が図られるよう、施設の適切な維持管理及び整備充実を図るものである。</p> <p>◆公民館運営費総額 18,257千円(財源 一般 20,427千円 特定 200千円)</p> <p>◆公民館使用料収入 186千円</p>		
実績	<p>◆概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー整備関係 160千円 ・年間利用者人数 7,598人(令和6年度8,245人) 		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館建物は建築後56年経過し、古い建物ではあるが適切な維持管理を行い、利用者には特に支障なく利用して頂くことができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が必要である。 		

事業の 方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>
	改善	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="checkbox"/>

〔ツ〕 社会教育関係団体補助事業				
事業の 概要	<p>◆目的 社会教育活動の推進を目的に実施される事業に対し、補助金を交付することにより、事業の円滑かつ有効な推進の一助とするものである。</p> <p>◆事業費 1,720千円(財源 一般1,720千円)</p>			
実 績	<p>◆三戸町連合婦人会事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 230千円</p> <p>◆三戸町子ども会育成連絡協議会事業・・・・・・・・ 310千円</p> <p>◆三戸町文化協会事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 400千円</p> <p>◆三戸町連合父母と教師の会事業・・・・・・・・ 80千円</p> <p>◆三戸町高齢者学級寿教室事業・・・・・・・・ 480千円</p> <p>◆三戸菊クラブ事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 220千円</p> <p style="text-align: right;">合計 1,720千円</p>			
成果と 課題	<p>◆成果 ・補助金の交付により各団体の事業が円滑に推進され、社会教育活動推進の一助となっている。</p> <p>◆課題 ・各団体の会員の減少・高齢化が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。</p>			
事業の 方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>
	改善	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="radio"/>

〔テ〕 サークル活動への支援				
事業の 概要	<p>◆目的 自主的な学習活動の推進の観点からサークル活動を支援するため、活動場所として公民館施設の提供等の支援を行う。</p> <p>◆事業費 0円</p>			
実 績	<p>◆公民館利用サークル 団体数18</p> <p>つぼみ会、よさこい三戸チーム、カ・マイレ・フラサークル、フラサークルkoko、三戸町民俗芸能保存会、寿舞踊クラブ、キャンパスの会、コーラスドルチェ トールペイント教室、三戸菊クラブ、三戸絵画サークル、手話サークルさんのへ、書道クラブ、絵手紙サークル川の驛、囲碁クラブ、将棋愛好会、押し花サークル 遠藤光子鉛筆画教室</p>			
成果と 課題	<p>◆成果 ・公民館講座から独立した団体の活動の場を提供できている。</p> <p>◆課題 ・作品制作や舞踊以外のサークルの発表の場が少ない。</p>			
事業の 方向性	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>
	改善	<input type="checkbox"/>	縮小	<input type="checkbox"/>

〔ト〕 三戸町立図書館の運営				
事業の 概要	<p>◆目的 自由で公平な資料の提供を中心とする諸活動により、町民の教養、調査及びレクリエーション等に奉仕する。</p> <p>・図書館蔵書の貸し出し、閲覧</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス(利用者の調査への対応)の実施 ・県内図書館との相互貸借、移動図書及び配本を含む図書資料の貸し出し ・図書資料の選書、除籍 <p>◆事業費 28,305千円(財源 一般22,177千円)</p>								
実績	<p>◆概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間開館日数 292日(前年度 295日) ・年間貸出冊数 13,925冊(前年度 14,127冊) ・年間入館者数 8,935人(前年度 9,199人) ・蔵書冊数 48,545冊(前年度 48,540冊) 								
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌スポンサー制度を導入し、図書館雑誌の充実及び図書館利用サービス向上の一助となった。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化により修繕箇所が増えているため、適切な維持管理に努めるとともに、施設の快適な利用のため、環境整備を行う必要がある。 								
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td><input type="radio"/></td> <td>縮小</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>	改善	<input type="radio"/>	縮小	<input type="checkbox"/>
継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>						
改善	<input type="radio"/>	縮小	<input type="checkbox"/>						

(5) 生涯スポーツの振興

〔ナ〕 総合優勝制町内対抗スポーツ大会																						
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>町民の体力、健康保持並びに増進を図り、町民相互の交流・親睦を図る。また、スポーツ人口の底辺拡大とスポーツの日常化を図る。</p> <p>◆事業費 314千円(財源 一般314千円)</p>																					
実績	<p>◆概要</p> <p>第36回大会は、新たな種目として、ワンバウンドフラバールバレーボールを取り入れた。</p> <table border="1"> <tr> <td>①バグゴ</td> <td>令和6年12月3日(火)～5日(木)</td> <td>14町内参加</td> </tr> <tr> <td>②ユニカール</td> <td>令和7年1月20日(月)～24日(金)</td> <td>13町内参加</td> </tr> <tr> <td>③ラダーゲッター</td> <td>令和7年2月17日(月)～21日(金)</td> <td>14町内参加</td> </tr> <tr> <td>④ビニールバレー</td> <td>令和7年5月12日(月)～16日(金)</td> <td>13町内参加</td> </tr> <tr> <td>⑤ポッチャ</td> <td>令和7年6月16日(月)～20日(金)</td> <td>14町内参加</td> </tr> <tr> <td>⑥ワンバウンドフラバールバレー</td> <td>令和7年6月30日(月)～7月4日(金)</td> <td>13町内参加</td> </tr> <tr> <td>⑦町民大運動会</td> <td>令和7年10月12日(日)</td> <td>14町内参加</td> </tr> </table>	①バグゴ	令和6年12月3日(火)～5日(木)	14町内参加	②ユニカール	令和7年1月20日(月)～24日(金)	13町内参加	③ラダーゲッター	令和7年2月17日(月)～21日(金)	14町内参加	④ビニールバレー	令和7年5月12日(月)～16日(金)	13町内参加	⑤ポッチャ	令和7年6月16日(月)～20日(金)	14町内参加	⑥ワンバウンドフラバールバレー	令和7年6月30日(月)～7月4日(金)	13町内参加	⑦町民大運動会	令和7年10月12日(日)	14町内参加
①バグゴ	令和6年12月3日(火)～5日(木)	14町内参加																				
②ユニカール	令和7年1月20日(月)～24日(金)	13町内参加																				
③ラダーゲッター	令和7年2月17日(月)～21日(金)	14町内参加																				
④ビニールバレー	令和7年5月12日(月)～16日(金)	13町内参加																				
⑤ポッチャ	令和7年6月16日(月)～20日(金)	14町内参加																				
⑥ワンバウンドフラバールバレー	令和7年6月30日(月)～7月4日(金)	13町内参加																				
⑦町民大運動会	令和7年10月12日(日)	14町内参加																				
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民相互の交流、親睦が図られ連帯意識を高めることができた。 ・新たな種目も取り入れながら、町民の体力、健康の維持、増進を図ることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年、参加町内が固定化している。参加者が気軽にスポーツに触れる機会ができるよう、ニュースポーツを中心に種目を決定しているが、参加できない町内会の多くは、人集めに苦慮しているようである。現在も連合チームとして参加している町内会があるため、全町内会が参加できるよう対策を講じる必要がある。 																					
事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>継続</td> <td><input type="radio"/></td> <td>拡充</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>改善</td> <td><input type="radio"/></td> <td>縮小</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table>	継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>	改善	<input type="radio"/>	縮小	<input type="checkbox"/>													
継続	<input type="radio"/>	拡充	<input type="checkbox"/>																			
改善	<input type="radio"/>	縮小	<input type="checkbox"/>																			

〔ニ〕 三戸町スポーツ賞表彰				
事業の概要	◆目的 三戸町スポーツ賞表彰規則に基づき、当町のスポーツの振興発展のため功績のあった個人・団体又はスポーツ活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。 ◆事業費 100千円（財源 一般100千円）			
実績	◆【スポーツ賞】 2個人 【スポーツ奨励賞】 9個人・1団体 合計 11個人・1団体			
成果と課題	◆成果 ・各種スポーツ競技において競技者として優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、スポーツ競技者等のさらなる意欲の向上に寄与すると共に町民のスポーツに関する興味・関心の拡大につながった。 ◆課題 ・各賞の被表彰候補者の情報収集について広く周知し、できる限り表彰できるよう仕組みづくりを検討する。			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヌ〕 各種スポーツ大会補助事業				
事業の概要	◆目的 各体育団体が行うスポーツ大会の開催に対する補助を目的とする。 ◆事業費 1,010千円（財源 一般950千円）			
実績	◆概要 ◆県民駅伝競走大会出場補助金・・・・・・・・・・・・・・・・ 540千円 ◆桜まつりマラソン大会補助金・・・・・・・・・・・・・・・・ 180千円 ◆鏡里杯相撲大会補助金・・・・・・・・・・・・・・・・ 290千円			
成果と課題	◆成果 ・各団体の大会開催について支援し、スポーツの振興に寄与できたとともに、大会運営や参加状況など将来的な方向性を確認できた。 ◆課題 ・特になし			
事業の方向性	継続	○	拡充	スポーツ大会が円滑に実施されるよう補助金の交付を行い、多くの参加者が競技を楽しみスポーツに親しめるよう援助していきたい。
	改善		縮小	

〔ネ〕 三戸町体育協会支援事業				
事業の概要	◆目的 三戸町スポーツ協会の活動を支援し、町民の体育振興を図ることを目的とする。 ◆事業費 2,000千円（財源 一般 2,000千円）			
実績成果と課題	◆補助金交付額 2,000,000円 ◆実施事業 (1) 競技団体等への活動費補助（総額665千円） 17の競技団体及びスポーツ少年団への補助金交付 (2) 普及振興事業			

	<ul style="list-style-type: none"> ・元旦マラソンの開催 令和8年1月1日(元日)64人参加 (3) 教室等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室 開催種目 ソフトテニス(25人)、剣道(2人)、相撲(10人) 登録児童・生徒数 33人 (4) 指導者資格取得・更新促進助成事業 陸上競技協会(1人)、パークゴルフ協会(2人)、柔道協会(3人) (5) 三戸郡総合スポーツ大会の開催、運営 令和7年度は三戸町が開催町となり、6月1日、7日、8日、町内各種体育施設等において、15種目の競技を開催した。 			
	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各加盟協会へ補助金を交付することにより、大会やスポーツ教室等事業が積極的に展開され、競技スポーツの振興が図られている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加盟競技団体の会員の減少や高齢化、活動休止が進んでおり、新規会員の加入促進が課題となっている。 			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ノ〕 スポーツ指導者の養成・活用				
事業の概要	<p>◆目的</p> <p>町民のスポーツ振興と競技力向上、そして地域の実態や住民のニーズに応じた指導ができる人材を育成することを目的とし、三戸町スポーツ推進委員などの資質と指導力を高める。</p> <p>◆事業費 1,298千円(財源 一般1,298千円)</p>			
実績	<p>◆スポーツ推進委員の研修及び会議</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 三八地区スポーツ推進委員研修会(9人参加) (2) 東北地区スポーツ推進委員研修会(8人参加) ※隔年参加 (3) 三八地区地域スポーツ推進事業(9人参加) (4) 全国スポーツ推進委員研究協議会宮崎大会(0人参加) (5) 第1回三戸町スポーツ推進委員会議(10人参加) (6) 第2回三戸町スポーツ推進委員会議(14人参加) <p>◆各種スポーツ大会等における推進委員による実技・ルール指導及び運営補助等</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 総合優勝制町内対抗スポーツ大会(運営補助) (2) 貝守地区ペタンク大会(運営補助) (3) 三戸町シニアスポーツ大会(審判長) 			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三戸町スポーツ推進委員が各研修会等に参加し、資質の向上を図ることができた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な活動を行い、より一層生涯スポーツの推進を図っていく必要がある。 			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ハ〕 勤労者体育施設管理運営（武道館・サンスポ）				
事業の概要	<p>◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ振興を図るため、武道館・サンスポーツランドを適切に維持管理し、快適で使いやすいスポーツ活動場所を提供することを目的とする。</p> <p>◆事業費 6,691千円（財源 一般 6,691千円）</p> <p>◆サンスポーツランド使用料収入額 91,700円</p>			
実績	<p>◆（1）武道館利用者数 555名（6年度：1,184名）</p> <p>（2）サンスポ利用者数 2,303名（6年度：3,841名）</p> <p>内訳 テニスコート 257名 野球場 2,046名</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校体育や部活動、町民の健康づくり、各種大会の開催など多様な活動場所として有効に使用されるとともに、身近で気軽に利用できるスポーツ施設として、多くの住民に利用されている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設で老朽化が見え始めていることから、修繕等により適切な維持管理に努める必要がある。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔ヒ〕 体育館等管理運営（町民体育館・松原運動公園）				
事業の概要	<p>◆目的 子どもから高齢者まで、生涯にわたり長く、スポーツやレクリエーションに親しむことができるよう、体育館及び松原公園の適正な維持管理を行う。</p> <p>◆事業費 松原公園維持管理費 3,129千円</p> <p>◆町民体育館使用料収入 35千円</p>			
実績	<p>◆町民体育館 年間利用者数10,570人（令和6年度10,553人）</p> <p>◆松原公園 ・樹木剪定及び除草等の実施（事業費 2,035千円）</p> <p>・陸上競技場整備（事業費 220千円）</p>			
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民体育館は建築後57年経過し老朽化しているが、適切な維持管理に努めており、支障なく使用することができる。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕が必要とされるものが数多く出てくると思われるので、今後も適切な維持管理が必要である。 			
事業の方向性	継続	○	拡充	
	改善		縮小	

〔フ〕 アップルドーム管理運営				
事業の概要	<p>◆目的 町民の生涯にわたるスポーツ及び文化活動の振興を図るため、アップルドームの適切な維持管理を行い、快適で使いやすいスポーツ及び文化のための活動場所を提供することを目的とする。</p> <p>◆事業費 30,637千円（財源 一般25,952千円）</p> <p>◆使用料収入 873千円（令和6年度913千円）</p>			

	◆課題 ・指定管理者と連携し、利用者増を図るイベント等の取り組みが必要である。 ・今後も学校や子ども会等への周知が必要である。 ・町外、県外からの利用者が多いことから、文化や観光その他三戸町の情報発信を行っていく必要がある。			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小	

〔ホ〕 町民プール管理運営																																				
事業の概要	◆目的 町民が水泳や水中運動、水に親しみながら、心身の健康増進を図り、生涯にわたるスポーツの振興に寄与することを目的とする。 ◆事業費 6,290千円（財源 一般6,290千円） ◆指定管理料 5,971千円 ※平成30年度より、指定管理者により町民プール管理運営を行っている。 ◆使用料収入 38千円（令和6年度 38千円）																																			
実績	◆概要 (1) 開設期間 令和7年6月15日～令和6年9月10日 (2) 開設日 80日（休館日を除く） (3) 運営時間 夏休期間 午前9時～午後7時 夏休以外 午後10時～午後5時 (4) 利用者数																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>総数（人）</th> <th>内学校利用</th> <th>内町外者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児</td> <td>36</td> <td>29</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>小学生</td> <td>585</td> <td>539</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>56</td> <td>53</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>225</td> <td></td> <td>181</td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>1,648</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,556</td> <td>1,510</td> <td>934</td> </tr> </tbody> </table>				区分	総数（人）	内学校利用	内町外者	幼児	36	29	7	小学生	585	539	46	中学生	56	53	3	高校生	6	5	1	一般	225		181	団体	1,648			合計	2,556	1,510	934
区分	総数（人）	内学校利用	内町外者																																	
幼児	36	29	7																																	
小学生	585	539	46																																	
中学生	56	53	3																																	
高校生	6	5	1																																	
一般	225		181																																	
団体	1,648																																			
合計	2,556	1,510	934																																	
	※（一般付添）53人																																			
成果と課題	◆成果 ・シート張りの屋内プールにより天候に左右されることなく開設することができたため、多数の利用者があった。 ・天候に左右されることがないため、小中学校の水泳の授業が計画的に実施できた。 ・利用者の事故、ケガが無く安全管理が適切に実施できた。 ・指定管理者の自主事業により、SUP体験やアクアチューブ体験、ミニ縁日などが実施された。 ◆課題 ・指定管理者の自主事業が図られたが、プールを利用した多様な体験や遊びを提供することにより、更なる利用者増が望まれる。健康増進運動を取り入れるなど成人や高齢者の利用向上も図る必要がある。 ・暑さ対策の適切な実施。																																			
事業の方向性	継続 改善	○	拡充 縮小																																	

(6) 芸術・文化活動の充実と文化財の保存

〔マ〕 三戸町立版画工房運営			
事業の概要	◆目的 文化の町づくりの充実振興を図り、文化事業の一環として版画創作活動の進展を図る。 ◆事業費 191千円（一般財源191千円） ◆使用料収入 1,050円		
実績	◆利用回数 1回（前年度 1回） 利用者数 1名（前年度 1名）		
成果と課題	◆成果 ・希少な利用需要に対応できた。 ◆課題 ・利用回数は前年度同様1回のみであり、今後の施設利用増は見込めないと推測されるため、廃止に向けた取り組みを進める。		
事業の方向性	継続 改善	拡充 縮小	○

〔ミ〕 芸術文化団体等補助事業												
事業の概要	◆目的 芸術文化活動の振興を図るため町内の芸術文化団体に補助金を交付する。 ◆事業費 620千円（財源 一般620千円）											
実績	◆概要 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">団 体</th> <th style="width: 40%;">主 な 事 業</th> <th style="width: 30%;">補 助 金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三戸町文化協会</td> <td>三戸町総合文化祭の開催</td> <td>400千円</td> </tr> <tr> <td>三戸菊クラブ</td> <td>菊作り講習会・菊花展の開催</td> <td>220千円</td> </tr> </tbody> </table>			団 体	主 な 事 業	補 助 金 額	三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催	400千円	三戸菊クラブ	菊作り講習会・菊花展の開催	220千円
団 体	主 な 事 業	補 助 金 額										
三戸町文化協会	三戸町総合文化祭の開催	400千円										
三戸菊クラブ	菊作り講習会・菊花展の開催	220千円										
成果と課題	◆成果 ・芸術文化団体へ補助金を交付することにより、地域の文化および伝統芸能の振興を図ることができた。 ◆課題 ・各文化団体とも会員数の漸減や高齢化が進んでいる。会員の増強と後継者の育成を図っていく必要がある。											
事業の方向性	継続 改善	○ 拡充 縮小										

〔ム〕 南部俵づみ唄全国大会開催事業			
事業の概要	◆目的 当町発祥である「南部俵づみ唄」を全国に発信するとともに、郷土の誇りある伝統文化として次世代に引き継ぐ事を目的とする。 ◆事業費 町補助金1,750千円（財源 一般1,750千円）		
実績	◆開催日 令和7年10月26日（日） ◆場 所 三戸町民体育館 ◆参加者 【子ども大会】12人 【本大会】45人		
成果と課題	◆成果 「南部俵づみ唄」発祥の地として全国大会を開催することで、文化の町として全国にP		

	<p>Rがなされ、また、町民に対しても、全国に誇れる文化が町にあるということを再認識させることで、伝統文化継承に向けた機運の醸成が図られた。</p> <p>◆課題 地元からの参加者が少ないため、講座等も含め継承にむけて取り組む必要がある。</p>			
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/>	拡充 縮小	

〔メ〕 三戸町文化賞表彰				
事業の概要	<p>◆目的 三戸町文化賞表彰規則に基づき、当町の芸術文化の振興発展のため功績のあった個人・団体又は創作活動において優秀な成績を収めた個人・団体を表彰するとともに、町民へ受賞者を紹介し、町全体でその功績を讃えるものである。</p> <p>◆事業費 150千円（財源 一般150千円）</p>			
実績	<p>◆【文化功労賞】 1個人 【文化賞】 8個人 【文化奨励賞】 4個人 2団体 合計 13個人 2団体</p>			
成果と課題	<p>◆成果 ・各種文化・芸術等の分野において指導者として貢献した方、あるいは創作・制作・演技・演奏活動等で優秀な成績を収めた方々を表彰し、町広報誌等により広く町民に周知することにより、芸術・文化活動へのさらなる意欲の向上に寄与するとともに町民の文化・芸術に関する興味・関心の拡大につながった。</p> <p>◆課題 ・町民への芸術・文化活動への啓発を続ける。 ・各賞の被表彰候補者の情報収集について広く周知し、できる限り表彰できるよう仕組みづくりを検討する。</p>			
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/>	拡充 縮小	

〔モ〕 三戸城跡保存活用事業				
事業の概要	<p>◆目的 三戸城跡を後世へ適切に伝えるための保存と活用を行う。</p> <p>◆事業費 13千円（財源 一般財源13千円）</p>			
実績	<p>◆実績内訳 ①「国史跡三戸城跡の保存管理及び活用」の実施 ②「ガイドさんと行く城歩き」の実施 ③「お城へ行こう！」の開催（小中学生向けの城歩き事業）</p>			
成果と課題	<p>◆成果 ①「国史跡三戸城跡の保存管理及び活用」 ・冬季を除き、月毎の定期パトロールを実施（8回） ・現状変更申請事務（劣化した道路標識柱および遊具の撤去等） ②「ガイドさんと行く城歩き」 ・城歩き案内回数：14回（ガイド謝金＝13,000円） ・解説人数：105人 ③「お城へ行こう！」の開催（小中学生向けの城歩き事業・八戸市と共催） 第1回目＝実施日：6月29日（日） 場 所：根城跡 ～土の城を歩く～ 参加数：親子2組（5人）</p>			

<p>第2回目＝実施日：7月6日（日） 場所：三戸城跡 ～石の城を歩く～ 参加数：親子2組（5人）</p> <p>※南部家の歴史や城跡の変遷から両城の特徴を比較することで理解を高められた。また、夏休みの自由研究の教材となるなど活用の促進につながった。 ※当該年度の参加者は、前年度より9人の減となった。</p> <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡三戸城跡の将来的な環境整備のイメージをまとめた、『整備基本構想』の策定を進める必要がある。 ・史跡三戸城跡の保存に万全を期すため、遺構の日常点検に努める必要がある。 ・城歩きガイドの資質向上のため、史跡を活用している先進地に赴いて現地研修を実施する必要がある。また、城歩きの利用を推進するため、ガイドの増員も併せて行っていく。 ・「お城へ行こう！」の参加者が年々減少していることから、既存の体験内容を大幅に見直す必要がある。 			
事業の方向性	継続 改善	○ 縮小	○ 史跡の本質的価値の周知を図るとともに適切な保存を確実なものとし、発掘調査等の研究を継続しながら、活用と整備を推進していく。

〔ヤ〕 歴史民俗資料館運営事業			
事業の概要	<p>◆目的 郷土の文化財を収集・保管・調査研究するとともに、展示して一般公衆の観覧に供する。</p> <p>◆事業費 8,039千円（財源 その他889千円・一般財源7,150千円）</p> <p>◆入館料収入 661,030円</p>		
実績	<p>◆全体の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期 間：令和7年4月1日～11月30日（延べ209日間） ・入館者数：3,353人（前年比-209人） <p>◆解説の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三戸城歴代城主の解説内容について、近年の研究で改められた解釈を含めるなど、刷新した。 <p>◆御城印販売事業</p> <p>目的：三戸城跡の周知及び保存整備・活用を推進するため「三戸城御城印」を販売するもの。</p> <p>金額：1枚300円（売上金の一部は保存整備・活用事業費へ充てる） 売上：227,700円（販売枚数：759枚）</p> <p>※当該事業は、南部領内の主要城館跡（17城）の管理団体が連携・相互協力し情報発信がなされている（南部御城印プロジェクト）。</p>		
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者3,353人へ歴史情報を提供した。 ・当該御城印の販売については、南部一族に縁のある城跡が所在する自治体と広域連携を行っており、城跡の活用促進につながっている。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館の新規入館者の多くは、三戸城と南部家の歴史に高い関心を持っており、関連する周辺城館跡も一緒に見学している傾向が高い。このため、史跡三戸城跡と関係の深い周辺の市町村との連携は不可欠であり、相互活用の促進につながる情報発信について、より高い効果が見込める方法がないか検討していく必要がある。 		

	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数の増加を図る最も良い方法は、施設の魅力を高める大規模改修が挙げられるが、これを実現するためには多くの経費と期間を要する。したがって、当面は施設のより良い有効活用の方策を検討しながら、入館者一人ひとりの利用に対する満足度を高められるよう努める必要がある。 所蔵資料が収蔵庫の許容量を超えており、収蔵庫内は資料で溢れている。このため、企画展のたびに入替作業で多くの時間を要するなど、保管場所の確保が大きな課題となっている。 展示室が狭く、また、固定された展示ケース等の制約から、「回遊性」や「見やすさ」について不適である。将来的には配置を含めた抜本的な見直しが必要である。 施設の老朽化が進んでいることから、毎年、修繕の箇所が増えている。 国史跡三戸城跡を訪れる人びとのニーズが多様化することが予想され、対応できる運営体制を整える必要がある。 				
事業の方向性	継続 改善	○ ○	拡充 縮小	○ ○	史跡三戸城跡に関する展示や体験学習等の活用に関する分野の充実を推進していく。

〔ユ〕 地域学習サポート事業																																									
事業の概要	<p>◆目的 郷土の歴史や文化に関する多様な学習プログラムを設定し、各種団体の地域学習に関する支援を行う（小中学校の社会科や立志科等への出前授業等）。</p> <p>◆事業費 0千円</p>																																								
実績	<p>◆事業実績 実施回数：8回 利用人数：250人（※前年比-330人） 主なサポート内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>授業名称（内容）</th> <th>団体名等</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和7年 5月 5日</td> <td>馬場のぼる縁の地を訪ねるバスツアー</td> <td>県内外</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>令和7年 6月10日</td> <td>三戸城の歴史・遺構見学</td> <td>八戸市鷗盟大学</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>令和7年 7月 6日</td> <td>お城へ行こう！in三戸城</td> <td>小学生及び保護者</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>令和7年 9月 8日</td> <td>三戸の伝統文化（祭り）</td> <td>三戸小学校5年生</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>令和7年11月 7日</td> <td>八ヶ寺巡り（健康づくりとコラボ）</td> <td>三戸町民</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>令和7年11月28日</td> <td>三戸城の歴史</td> <td>三戸小学校6年生</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>令和7年12月18日</td> <td>三戸城の歴史</td> <td>野辺地町町民講座</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>令和8年 2月 7日</td> <td>地域の誇れるもの</td> <td>土曜塾</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>					実施日	授業名称（内容）	団体名等	人数	令和7年 5月 5日	馬場のぼる縁の地を訪ねるバスツアー	県内外	36人	令和7年 6月10日	三戸城の歴史・遺構見学	八戸市鷗盟大学	60人	令和7年 7月 6日	お城へ行こう！in三戸城	小学生及び保護者	5人	令和7年 9月 8日	三戸の伝統文化（祭り）	三戸小学校5年生	46人	令和7年11月 7日	八ヶ寺巡り（健康づくりとコラボ）	三戸町民	24人	令和7年11月28日	三戸城の歴史	三戸小学校6年生	47人	令和7年12月18日	三戸城の歴史	野辺地町町民講座	12人	令和8年 2月 7日	地域の誇れるもの	土曜塾	20人
実施日	授業名称（内容）	団体名等	人数																																						
令和7年 5月 5日	馬場のぼる縁の地を訪ねるバスツアー	県内外	36人																																						
令和7年 6月10日	三戸城の歴史・遺構見学	八戸市鷗盟大学	60人																																						
令和7年 7月 6日	お城へ行こう！in三戸城	小学生及び保護者	5人																																						
令和7年 9月 8日	三戸の伝統文化（祭り）	三戸小学校5年生	46人																																						
令和7年11月 7日	八ヶ寺巡り（健康づくりとコラボ）	三戸町民	24人																																						
令和7年11月28日	三戸城の歴史	三戸小学校6年生	47人																																						
令和7年12月18日	三戸城の歴史	野辺地町町民講座	12人																																						
令和8年 2月 7日	地域の誇れるもの	土曜塾	20人																																						
成果と課題	<p>◆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学習を通じて郷土に対する理解や愛郷心を育むことができた。 授業の主体が体験型であることから高い学習効果が認められる。 小学3年生の社会科単元「道具とくらしのうつりかわり」で使用する教材の運搬作業が長年の課題であったが、三戸小学校の1階空き教室を教材の保管場所として使用できることになり、今後の教材運搬作業の負担が大幅に軽減できた。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校からの要請が少なかったことから、利用人数が前年に比して減少した。このことから、学校への事業紹介を年度初めに行うなど、周知活動を推進する必要がある。 「道具とくらしのうつりかわり」の教材のうち、「水汲み桶」に傷みが生じており、メンテナンスが必要である。 小学5年生の社会科学習における用水をはじめとした近代資料の教材を補填しておく 																																								

	必要がある。 ・教材の準備や運搬の負担軽減を目指し、今後に教材のコンパクト化や準備の簡便化を図る必要がある。 ・三戸の小中一貫教育の根幹となる「立志科」の郷土学習に対応できる地域教材の更なる整備と充実を図る。		
事業の方向性	継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/>	拡充 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/>	体験型の学習を充実させるため、教材の開発や資料の収集に努める。

〔ヨ〕 伝統芸能保存継承事業（再掲） （学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成と関連）			
事業の概要	◆目的 伝統文化の保存継承のため、活動の記録作成や後継者の育成支援、発表機会の充実に努める。 ◆事業費 0千円		
実績	◆伝統行事での各団体の活動支援及び記録作成 ①「泉山七歳児初参り」 実施日：令和7年7月25日（金） 参加した七歳児：7名 ②「三戸秋まつり」（斗内獅子舞） 実施日：令和7年9月26日（金）お通り " 28日（日）お環り ◆継承活動（学校授業等）への支援 三戸小学校5学年を対象に「三戸の伝統文化（祭り）」の出前授業を実施 実施日：9月8日		
成果と課題	◆成果 ・活動支援により、後継者育成の一助になっている。 ・各種団体の活動記録をまとめることができた。 ◆課題 ・各種団体の活動で最も重要なことは後継者の育成であり、このことが保存と継承を大きく左右する。しかし、近年の大幅な人口流出等により、どの団体も後継者の確保が困難となっている。 ・団体の発表機会を拡充していく必要がある。 ・「遠藤のえんぶり」と「貝守のもちつき唄」の保存が困難となっていることから、最低限の保存として、動作や囃子の映像記録を編集する必要がある。		
事業の方向性	継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/>	拡充 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/>	保存と継承を推進するには各種団体の発表の機会を充実させることが最も重要であり、団体及び関係機関に働きかけをしていく必要がある。

〔ラ〕 歴史講演事業			
事業の概要	◆目的 三戸町の歴史研究及び保護を推進するとともに、地域住民が郷土の歴史に触れ、誇りを持つよう研究成果の公開・活用を実施し、文化の発展に寄与する。 ◆事業費 231千円（財源 一般財源231千円）		
実績	◆第4回三戸お城講座の開催 実施日：令和7年6月22日（日） 会場：三戸町中央公民館ホール 演題：城のシンボル「天守」～その創始と発展について～ 講師：加藤理文氏（公益財団法人 日本城郭協会理事） 受講者：約30人		
成果と	◆成果		

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演を通じて、城郭史への理解が高まった。 ・ 史跡の保存と活用の大切さについて周知することができた。 ・ 三戸城跡と三戸南部家の周知ができた。 ・ 参加者が約30人と、前回（約60人）より大幅な減となった。 <p>◆課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、歴史に関する講演会の参加者数が減少している。一方で、アンケートでは、ほとんどの人が講演内容に「満足している」結果となっている。このことから、効果的な周知方法を検討する必要がある。 ・ 三戸町には、多様な歴史資料や伝統文化が残っていることから、これらについても、優先度に応じて、公開する機会をつくるように努めていくことが重要である。 			
事業の方向性	継続 改善	<input type="radio"/>	拡充 縮小	<p>「三戸お城講座」は、城郭の講演に特化したものであり、周辺では同様の講演会がないことから、重要な事業として今後も継続していきたい。</p>